

- 縁・共生の場
 - ・「遊べる学べる淡海子ども食堂」 ● 16か所
 - ・“滋賀の縁”認証事業 ● 9か所
- 課題解決のためのネットワーク
 - ・滋賀の縁塾の開催 ● 8か所
 - ・圏域交流会の開催 ● 7か所
- 制度のはざまの解決に取り組むモデル事業
 - ・フリースペース● ・要養護児童の自立支援■
 - ・入浴支援事業▲ ・ひきこもりの人と家族支援◆ ・はたらく体験★
- 縁結び・つながりづくり
 - ・ふく・楽café● ・福こい♡縁結び♥



えにし白書

発行:平成28年(2016年)4月28日

滋賀の縁創造実践センター

〒525-0072 滋賀県草津市笠山7丁目8-138

社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会内

TEL 077-569-4650 FAX 077-567-5160 ✉ enishi@shigashakyo.jp

【ホームページ】<http://www.shiga-enishi.jp>

【Facebook】<https://www.facebook.com/shiganoenishi>



えにし 白書

誰もが「おめでとう」と誕生を祝福され
「ありがとう」と看取られる地域づくり





はじめに1

＜縁・共生の場づくり リーディングプロジェクト＞
 地域で子どもの笑顔を育む！
 遊べる・学べる淡海子ども食堂2

ともに生き、支え合う滋賀の福祉モデルを共有
 “滋賀の縁”認証事業6

＜課題解決のためのネットワークづくり＞
 困っている人を真ん中において、あらゆる分野の専門職が学び合う
 滋賀の縁塾8

圏域のなかで分野と所属を越えてつながり、課題を共有
 地域の支援者交流会10

＜ほっとけない「制度のはざま」 モデル事業の企画実施＞
 「何かあったらここにおいて」地域の施設が子どもの居場所に！
 フリースペース12

児童養護施設や里親のもとで暮らす子どもたちの自立を企業・事業所が応援！
 ハローわくわく仕事体験17

ひきこもりがちな人と家族のココロへのアプローチ
 ひきこもりがちな人やその家族に支援を届ける「甲賀モデル事業」22

生きづらさを抱える人の「働きたい」を応援！
 傍業(はたらく)体験26

住民を支える専門職の思いは制度を超える
 医療ケアを必要とする重症心身障害児者の入浴支援モデル事業28

＜つながり・ひろがる縁＞
 みんなでつくろう、未来のふくし
 ふく・楽café～縁～30

～“滋賀の縁”があるから出会える人がいる～男女の縁結び
 福こい♡縁結び32

ピンバッジ普及県民運動34

子どもの笑顔を育むコミュニティづくりのための調査事業
 (ひとり親家庭の子育てに関する実態調査)35

“おめでとうからありがとうまで” 公私協働の福祉しが連携協定36

つながりひろがる縁の輪～広報紹介～38

趣意書40

縁センター5年間の目標41

縁センター理事・企画員・推進員・プロジェクトメンバー42

縁センター会員44

これまでの歩み45

滋賀の縁創造実践センターは、平成26年4月に設立準備会総会を開き、同年9月に正式発足しました。まさに系賀一雄生誕100年の年でした。滋賀の民間福祉の現場を牽引する人たちが、これまでからそれぞれの現場で「放っておけない」と自覚し、それぞれの法人や組織のなかで精いっぱい支援をしてきた制度のはざまの問題を、それぞれがバラバラに取り組むのではなく分野や立場を超えて共有し、共感し、そして「ひとりの不幸も見逃さない」ために共動しようと呼びかけ、会が創られました。

創造実践の名の通り、必要としている人がいるのに対応する支援がないなら創っていこう、社会福祉に従事している者として自分たちのできることを出し合って、大人も子どもだれもが地域で幸せに生きることができるシステムを創っていこう、と会員自らが主体者として動き出しました。「自覚者が責任者」という志しの具体化です。

さびしさやしんどさから夢を失いそうになっている子どもや若者を支える実践をはじめ、目の前で困っている人たちのことを大切にしているからこそ、いくつものモデル事業が動きだし、多くの方が仲間として協力をしてくださっているのだと思います。

縁センターは3年目に入りました。「滋賀の福祉は人を大事にするほんまもんの福祉」でありたいと願います。縁の実践が将来に継続していくシステムとなるよう、さらに多くの福祉関係者が実践者となり、県民のみなさんとともに、心温かく豊かな福祉滋賀への歩みをすすめてまいりましょう。

えにし白書の発刊によせて、縁センターで活動するすべての会員の拠りどころである系賀一雄のことばを記します。

この世のなかには、全体としてどんなに繁栄があっても、
 そのなかで不幸に泣くひとがひとりでもいれば、
 それは厳密な意味で福祉に欠けた社会といわなければならないと思う。
 社会福祉ということばの意味は、社会全体の組織のなかで、
 一人ひとりの福祉が保障される仕組みをいうのである。
 経済的な意味でも社会的な意味でも、
 不平等や差別感が克服されなければならない。
 そしてひとりももれなく、人間として生まれてきた
 生きがい豊かに感じられるような
 世の中をつくらねばならない。



地域で子どもの笑顔を育む!

遊べる・学べる淡海子ども食堂

目的

地域に子ども食堂をつくろう!～子どもたち一人ひとりが大事にされる居場所～

「遊べる・学べる淡海子ども食堂(以下、「淡海子ども食堂」)は、子どもが安心できる大人と出会い、おなかいっぱいご飯を食べて、宿題をしたり、遊んだり、安心して過ごせる地域の居場所です。ここでは、子ども世代も働く世代も高齢者世代も、皆が活動の主役です。

地域のなかでは見えにくい「子どもの貧困」をみんなの問題として考えられる地域、さびしさやしんどさを抱える人を見逃さず、さびしさやしんどさを笑顔に変え、笑顔を育む地域をつかっていくために、「遊べる・学べる淡海子ども食堂」モデル事業を推進しています。



展開

どんな展開、ひろがりをしてきたか(プロセス)

- H27.3～ 淡海子ども食堂プロジェクトチームを設置し、淡海子ども食堂の推進策、支援策について検討をはじめ
- H27.8～ 淡海子ども食堂モデル事業の募集を開始
- H27.8 「地域に子ども食堂をつくろう!!」研修会の開催
- H27.10 龍谷大学福祉フォーラム第13回共生塾(テーマ:「子ども食堂やってみよう地域で作る子どもの居場所」)に共催
- H27.10 6団体(4市)がモデル事業として採択(大津市3、長浜市1、守山市1、栗東市1)
- H27.12 5団体(4市)がモデル事業として採択(計11団体)(長浜市1、野洲市1、湖南市1、米原市2)
- H28.2 5団体(5市)がモデル事業として採択(計16団体)(長浜市1、近江八幡市1、東近江市1、米原市1、日野町1)
- H28.3 淡海子ども食堂交流会の開催



▲ながはま子ども食堂



▲おいわか子ども食堂「おいで屋」

仲間

事業活動をともに進めている方たち、協力者、参加者等(平成28年3月現在)

※赤字は実施団体の皆さん

- ①ながはま 子ども食堂(平成27年8月～、月1回)
老人ホームながはま(社会福祉法人グロー)、施設利用者・施設ボランティア、地域のボランティア、滋賀文教短期大学の学生、長浜市社会福祉協議会、地元交番等
- ②おいわか子ども食堂「おいで屋」(平成27年7月～、長期休み中心)
地域交流センター若しも若きも(社会福祉法人真盛園)、学校、児童館、地域のボランティア、大津市社会福祉協議会 等
- ③子ども食堂平野学区のぞみ(平成27年6月～、月1回)
平野学区母子福祉のぞみ会、大津市社会福祉協議会、市民センター、地域のボランティア 等
- ④晴嵐みんなの食堂(平成27年5月～、月1回)
NPO法人CASN、地元商店街、学区民生委員児童委員協議会、学区社会福祉協議会、龍谷大学の学生、大津市社会福祉協議会、地域のボランティア 等
- ⑤ゆうあい子どもカレー★食堂(平成28年8月～、月1回)
栗東市社会福祉協議会、学区民生委員児童委員協議会、学童保育所、地域のボランティア 等
- ⑥地域交流スペース かりん(平成27年9月～、月2回)
NPO法人スペースウィン、学区民生委員児童委員協議会、母子福祉のぞみ会、市子ども家庭相談課、守山市社会福祉協議会、地域のボランティア 等
- ⑦ふたば・あすなる食堂(平成27年12月～、月1回)
ふたば・あすなる学級保護者会、小中学校教員、学級を卒業した若者、地域のボランティア、野洲市社会福祉協議会 等
- ⑧にぎわい広場カトレア(平成28年1月～、月1回)
石部南学区まちづくり協議会、学区民生委員児童委員協議会、湖南市社会福祉協議会、地域のボランティア 等
- ⑨ウイナーサークル&「キッズ☆カフェ」(平成28年1月～、月1回)
長浜おやこ劇場ウイナーサークル、地域のボランティア、長浜市社会福祉協議会 等
- ⑩わっか 子ども食堂(平成27年11月～、月3～5回)
任意団体 わっか、地域のボランティア、米原市社会福祉協議会 等
- ⑪湖北子ども食堂「リエゾン(Liaison)」(平成28年1月～、月1～2回)
任意団体 リエゾン、民生委員児童委員、地域のボランティア、米原市社会福祉協議会 等
- ⑫ピース子ども食堂(仮称)(平成28年度初旬よりスタート予定、月1回)
NPO法人スーブル、居場所を利用している青年、地域のボランティア、日野町社会福祉協議会 等
- ⑬むさっ子食堂(平成27年12月～、長期休み中心)
むさっ子食堂運営委員会(小学校、こども園、子どもセンター、学区民生委員児童委員協議会、学区自治連合会、学区まちづくり協議会、学区社会福祉協議会、学区主任児童委員、家庭支援コーディネーター、地域福祉推進員 等)、地域のボランティア、近江八幡市社会福祉協議会 等
- ⑭たまり場子ども食堂(平成28年2月～、毎週土曜+長期休みの夜)
大野木長寿村まちづくり会社、地域のボランティア、米原市社会福祉協議会 等
- ⑮こどもの居場所「まんま」(平成28年3月～、月1回)
北郷里子どもの居場所つくりの会、地域のボランティア、長浜市社会福祉協議会 等
- ⑯おかえり食堂(平成28年4月～、月1回)
おてんとさん、民生委員児童委員、地域のボランティア、東近江市社会福祉協議会 等

エピソード 活動者の声

- 大人よりも子どもの方が少ないわけですから、しんどい思いをする子どもを減らせるように、地域の子どもは地域で育てていくことが大人の役割ではないでしょうか。「貧困」というよびかけや表現ではなく、目配り気配りを大事に、普通の食事をみんなで楽しくできる場にしたい。
- 近い境遇に限定しているから参加しやすい居場所。“誰でもおいで”だから参加しやすい居場所。色々な食堂があつてよいのではないかな。
- 地域の子どもたちに何かできることがあればと思っははじめた子ども食堂ですが、今では私たちの生きがいの一つになっています。
- 活動をはじめて様々な人が協力してくれるようになりました。野菜を提供してくれる人や子どもの行き帰りを

- 守ってくれる人がいたり、安く会場を貸してくれたり、色々な人が力を出し合つて子ども食堂が成り立っています。
- 子どもたちが元気に来れる場所を・・・と始めましたが、地域の大人も世代を超えて食堂に来てくださっています。ここはひとりぼっちじゃない場所だなと思います。
- 「ほんとうに私たちにやれるのかしら」と思いながら始めた。特別な子どもというレッテルを貼らずに、ふつうのことをしていきたい。
- 学校の先生方も、気楽にごはんを食べに来てもらえたらうれしい。
- さびしい気持ちでいる子どもや困っている子どもにどうしたら「来てね」と伝えられるのかと悩んでいる。
- 自分たちがやろうと決めたことなので責任もって続けていければ、県や市もバックアップしてくれていると励ましになる。

メンバー

「遊べる・学べる淡海子ども食堂」プロジェクトチーム(平成27年度)

- 中村 静代(社会福祉法人米原市社会福祉協議会 事務局長)
- 飯沼 昭男(滋賀県民生委員児童委員協議会連合会 理事)
- 井上 千紗登(社会福祉法人湖南市社会福祉協議会 主事)
- 井上 由美(社会福祉法人大津市社会福祉協議会 地域支援グループ 主事)
- 小倉 稀唯子(社会福祉法人真盛園 地域交流センター若いも若きも コーディネーター)
- 西岡 優(社会福祉法人グロー 法人本部 主事)
- 福島 功(滋賀県子ども・青少年局 副主幹)
- 本間 由樹(社会福祉法人栗東市社会福祉協議会 地域福祉課 業務主任)
- 安武 邦治(社会福祉法人グロー 法人本部 企画推進課長)
- 幸重 忠孝(滋賀県スクールソーシャルワーカー/幸重社会福祉士事務所 代表)
- 吉原 信道(社会福祉法人高島市社会福祉協議会 相談支援員)



▲ウイナーサークル「キッズ☆カフェ」



▲たまり編子ども食堂

遊べる・学べる淡海子ども食堂モデル事業の概要

■実施団体

緑センター団体会員、法人会員および団体会員、法人会員が推薦する団体、グループ

■活動の支援

- モデル事業の運営への助言や支援を行い、必要に応じて立ち上げ等にかかる経費の助成を行います。
- ・初度経費等の助成 初年度20万円、2年目、3年目10万円(3年まで)
- ・運営への助言、支援、学習会等の開催等

■募集受付期間

募集受付は随時行っています。

Q:何が一番大事?

A:地域に開かれた食堂ですが、中でも本当に寂しさやしんどさを抱えた子どもが参加できるよう、関係機関や地域の様々な人とつながりながら、応援団をつくりながら活動することが大事です。

Q:助成金はどんなことに使えるの?

A:立ち上げにかかる初度経費、運営費を考えていますので、主に備品の購入やチラシ作成に必要な経費、消耗品や保険料、活動者の交通費等にお使いください。

Q:実施回数(頻度)の目安ってどれくらい?

A:月に1回以上の実施を目安としています。同じ場所で定期的に食堂が開かれていることは、地域の子どもたちや大人たちが集まりやすく、つながりを感じる機会が増えることにもつながります。

Q:食事を提供する上で注意することは何ですか?

A:食物アレルギーのある子どももいますので、食べられないものを事前に確認しておく必要があります。また、生ものはできるだけ避け、加熱した食事を提供するなど、食中毒にも注意しましょう。

【①関係書類の受取り】

「子ども食堂」の企画内容について、緑センター会員もしくは緑センター事務局に相談し、実施申請に必要な書類を受け取ります。(書類は、滋賀の緑創造実践センターのホームページからダウンロードできます。)

【②モデル事業の申請】

3年間の事業計画およびモデル事業終了後の事業展望計画を作成し、実施申請書とあわせて緑センターに提出します(会員以外の団体は、会員を通じて提出してください)。

【③審査】

緑センター正副代表理事会において、提出された実施申請書を審査し、モデル事業の実施および助成金の交付を決定します。

【④決定通知書の受取り】

モデル事業として決定されると「決定通知書」が緑センターから出されます。助成金の交付決定がされた実施団体については、「助成金請求書」に基づき、助成金が指定口座に振り込まれます(申請から概ね3か月以内)。

【⑤事業実施】

緑センター会員(推薦団体)や緑センター事務局が定期的に訪問し、運営面の相談に応じます。研修会、交流会等の案内をします。

【⑥報告】

毎年4月末までに「実施報告書」を緑センターに提出します。上記報告書と合わせて、「継続実施申請書」を提出してください。

「やってみよう」と思ったら...申請から報告までの流れ



子どもの笑顔を育むコミュニティづくりに取り組んでいます!

“滋賀の縁”認証事業

目的

なにを目的にした、どんな事業か(概要)

「社会の中に居場所がある」とは、自分の存在が認められ、尊重されているということです。

一人ひとりが人として大切にされ、小さな助けてサインや、気づきが相談につながる。そのような場を「縁・共生の場」と名付けました。

滋賀の縁 認証事業は、これまで県内各地で人々が自発的につくり、育ててきた「福祉活動」を、滋賀の福祉モデルとして認めあい、広く県民のみなさんと共有し、県内に波及していくよう働きかけていく事業です。(県と縁センター、県社協の三者による事業)

何のために、誰のために活動しているのかを明確

にもった、①一人ひとりが大事にされ、社会的孤立をつくらない共生社会をめざした活動、②現行制度の枠にとらわれず、新たなつながりや視点から課題解決に取り組む活動を認証します。



展開

どんな展開、ひろがりをしてきたか(プロセス)

● 滋賀の縁認証事業の流れ

発掘 → 推薦 → 審査 → 認証 → ひろげる

● 「滋賀の福祉モデル」として多くの人たちが共有し、波及させていきたいと思う活動を推薦により応募いただき、認証委員会において審査をします。

● 認証された活動については、県のホームページをはじめ様々な場面で県民のみなさんにお伝えするとともに、「自分たちも工夫しながらやってみよう!」と

動き出してくださいよう働きかけます。

● 認証をめざした活動として奨励する活動には奨励証書を交付し、必要に応じて活動への支援を行います。

5月26日 第1回認証式…3件、8団体が認証

12月15日 第2回認証式…1団体が認証、2団体を奨励

メンバー

認証委員会(平成27年度)

- 藤本 武司(滋賀県健康医療福祉部長)
- 鈴野 崇(滋賀県健康福祉政策課長)
- 市川 忠稔(滋賀県障害福祉課長)
- 森井 一夫(滋賀県子ども・青少年局副局長)
- 奥田 康博(滋賀県医療福祉推進課介護保険室長)
- 桐畑 弘嗣(市町社会福祉協議会会長・縁センター副代表理事)
- 崎山 美智子(滋賀県手をつなぐ育成会理事長・縁センター理事)
- 小林 江里子(滋賀県民生委員児童委員協議会連合会副会長)
- 山田 容(龍谷大学准教授)
- 渡邊 光春(滋賀県社会福祉協議会会長)
- 奥山 光一(滋賀県社会福祉協議会事務局長)

仲間

認証・奨励を受けた団体の皆さん

【認証】

第1号: 社会福祉法人真盛園地域交流センター 老いも若きも(大津市)

築85年の古民家を改修し、赤ちゃんから高齢者まで、いつでも誰でも集える「みんなのお家」として、社会福祉法人真盛園が平成17年1月に開所。子どもから高齢者、障害のある人もない人も、地域で暮らすみんなが集い、共に生き、支え合う居場所となっており、地域の共生の場として根付いています。

第2号: 高島市の各住民福祉協議会が運営する 地区ボランティアセンター

- ①高島市マキノ地区ボランティアセンター
- ②高島市今津地区ボランティアセンター
- ③高島市朽木地区ボランティアセンター
- ④高島市安曇川地区ボランティアセンター
- ⑤高島市高島地区ボランティアセンター
- ⑥高島市新旭地区ボランティアセンター

10年後には市内の全自治会45%が限界集落や消滅集落になる恐れがあることから、各6地区の住民福祉協議会が主体的に同センターを運営。住民、当事者、支援者らが気軽に話することができる場所となり、身近な相談を持ちよれる場、ボランティアの交流拠点、課題を抱えた人の居場所となっています。

第3号: NPO法人もの忘れカフェの仲間たち 仕事の場(守山市)

認知症の人が力を発揮し、社会参加できる場所の創設を目的として平成16年に「もの忘れカフェ」を始めた医療法人藤本クリニックは、平成23年からは就労の機会を望む若年認知症の人のための「仕事の場」づくりを先駆的にはじめられました。ここでは認知症の人に限らず、障害のある方、地域の方、介護をされているご家族など、様々な人が参加する場となっており、利用者同士が互いに支え合い、刺激を受け合う関係が生まれています。

第4号: 移動商店街 ゴうれつ本舗(高島市)

障害のある人の働きを通して地域の課題(買い物困難)を解決していこうと、平成23年9月から活動をスタート。県内の障害のある人たちの就労支援を行



う事業所が集まり、高島市内山間部を中心に販売者を連れて走っています。障害のある人たちにとっては自信と意欲をもって働く場となり、また、地域の皆さんには買い物の機会と交流の場を提供する活動となっており、大変喜ばれています。

【奨励】

○地域交流センター「ななまがり」(守山市)

誰もが気軽に集える居場所、生きがいづくりとして、住民が主体となって拠点をつくりました。月曜から金曜まで毎日開いていて、子育てボランティア、見守りボランティア等の活動や、百歳体操、おしゃべり広場といった活動まで、幅広く利用される中で、まさに誰もが自由に集まり、交流できる場所になっています。中でも地元の営農組合から提供された野菜を使ったランチ(毎週水曜)があり、そこで普段の困りごとを話す中で、専門職と連携しながら相談を上げています。

○男性介護者のつどい「中北の家」(野洲市)

毎月第4火曜日、古民家改修型の家屋をつかい、その名のとおり男性介護者がつどい、居場所として活動しています。つどいでは、看取り終えた方、妻の介護を10年以上も続けている方、サービスの使い方が分からない方など、悩みを抱え込み孤立してしまいがちな男性介護者の心のケアや情報交換、スキルアップを図っています。この大切な居場所をひろげていくために、認知症の啓発活動等も積極的に行っています。



▲5月26日の認証式にて



▲12月15日の認証式にて

困っている人を真ん中において、あらゆる分野の専門職が学び合う

滋賀の縁塾

今年度のテーマは「多職種連携のチームづくりを学ぶ」

目的

なにを目的にした、どんな事業か(概要)

滋賀の縁塾は、多様な専門職が今求められる役割について考え、縁センターがめざす滋賀の福祉の姿について理解を深める講義と、縁センター会員の皆様から提出いただいた「気づきシート」を題材にした地域の生の事例を用いて、そこで奮闘する支援者の思いに共感し、事例に直面した際の「連携」のあり方について考える演習というプログラムです。

事例について支援の方策を具体的に出し合った

り、支援の良し悪しを考えていくのではなく、日頃の業務と異なる立場で事例と向き合い、事例に登場する人物の問題意識やそれぞれの立場を認め合い、共感することの大切さを学び合います。圏域ごとに実施する縁塾は、同じ地域の専門職同士が出会う場となり、事例を通して対話をするなかで「こんな時につながってみたい」と思える関係性がつられつつあります。

展開

どんな展開、ひろがりをしてきたか(プロセス)

滋賀の縁塾は、平成26年度に2会場(70名)、平成27年度に圏域7会場(139名)、公私協働のマネジメント研修(20名)を開催し、高齢、障害、児童、社協等あらゆる分野の専門職延べ229名が参加しました。

当初、縁塾の参加者は、高齢者施設の専門職が多く、使用する事例もケアマネージャーから提出があった「気づきシート」を中心に、要介護高齢者と子どもの双方に支援が必要なケースや終末期における生活困窮、難病、支援拒否等の事例を扱いました。

た。縁塾実施ごとに、講師の先生と研修内容や使用した事例について振り返り、地元地域や参加者に応じた研修を検討してきました。平成27年度後半の縁塾は、保育園の現場から提出があった「気づきシート」を中心に、子どもへの直接支援だけではなく、孤立している家庭に支援の必要がある事例を扱いました。保育現場の専門職の参加も増え、同じ地域の福祉現場であっても顔を合わせて対話したことのない専門職同士のつながり合いの輪が広がっています。

メンバー

気づきシート小委員会(平成27年度)

- 上野谷 加代子(同志社大学大学院教授)
- 澤 和清(滋賀県社会福祉士会会長)
- 山辺 朗子(龍谷大学社会学部教授)※平成27年11月ご逝去
- 野村 裕美(同志社大学社会学部准教授)
- 永田 祐(同志社大学社会学部准教授)
- 内田 大(大津市社会福祉協議会 地域支援グループ主事)
- 藤木 優子(滋賀県社会福祉士会)
- 時光 直二(滋賀県社会福祉士会)



エピソード

参加者と事例作成協力者からの声

- 自分と同じ視点を持っている人の存在がわかり、また自分も他の職種の視点から捉える事が必要だということが学べました(参加者)
- 一人ひとりの気づきの積み重ねが大切であり、その気づきを出せる関係性(「気づきを出してもいいんだよ」という空気づくり)が大切ということを改めて感じました(参加者)
- 先生の「組織が連携するのではなく、人と人が連携する」という言葉に、そうならないと支援が進まない、ていねいな支援にならないと思いました。(参加者)
- 関係機関が閉塞的だと、連携がうまくいかず、支援が丸投げのようになってしまいます。会議の場だけの連携でなく、それぞれの機関が「のりしろ」を持って重なり合うような連携が必要です。職種というよりも、支援者、地域をアセスメントし、その人やその地域の持ち味を生かせるようにしています。(コメンテーター)

- 専門職は、課題がどんどん見えてしまい、自分の立場でどこまでしたらよいかわからない、制度もないし、誰もリーダーになりたくないし...でも、気づいて「何かできないかな」と思っている支援者はたくさんいます。「やったほうがいいけど踏み切れない」支援者の背中を「やってもいいんだよ」と押してあげると、支援者は「これでいいのだ」と覚悟を持って、生き生きと動き出して力を発揮されます。支援者を支える「支援者支援」が必要であると思います。(コメンテーター)
- 「事例を提供するのにプレッシャーがあり、縁塾って何するところ?」と思っていました。先生に自分のいる状況を視覚化してもらい、頭の中で整理できました。また、日常の業務を正しいか間違っているかで判断していたので、先生の「正しいか間違っているかではなく、その時に精一杯やったか」という言葉で気が楽になりました。事例を提供できてよかったです(事例作成協力者)

仲間

縁塾に集った方たち

〈事例作成にご協力いただいた方〉

- 小椋 千里(社会福祉法人青祥会 秦荘ケアプランセンター 管理者リーダー/居宅介護支援専門員)
- 澤 和記(社会福祉法人光養会 ふじの里ケアプランセンター 主任介護支援専門員)
- 中沢 有紀(社会福祉法人栗東市社会福祉協議会 地域福祉業務主任)
- 寺尾 行代(社会福祉法人青桐会 正休ののほ保育園 園長)
- 山田 久恵(社会福祉法人めぐみ会 八日市めぐみ保育園 主任保育士)

〈縁塾参加者〉

大津会場

仰木屋の子保育園、犬上ハートフルセンター、甲賀・湖南成年後見センターばんじー、大津市社協、こころいちばん居宅介護支援センター、正休ののほ保育園、ひかり保育園、介護老人保健施設ケアセンターこうせい、県社会福祉士会、小鳩会、美輪湖の家大津・瑞穂、慈恵会、特別養護老人ホームカーサ月の輪、におの浜保育園

湖南会場

特別養護老人ホームしがそせい苑、ケアプランセンターぎょうの里、高齢者総合福祉施設 桐生園、県高次脳機能障害支援センター、株式会社明尚、県立むれやま荘、近江ちろば会高齢者支援センター、美輪湖の家大津・瑞穂、特別養護老人ホームせせらぎ苑、共生舎なんてん、野洲市社協、甲賀市社協、栗東市社協、野洲市社協

甲賀会場

甲賀市社協、長浜保健所、愛荘町地域包括支援センター、ふれあいセンター「そよ風」大空、県教育委員会、さわらび福祉会、県社会福祉士会、特別養護老人ホーム信楽荘、しがらき会信楽青年寮、特別養護老人ホームせせらぎ苑

東近江会場

東近江市社協、めぐみ保育園(彦根)、ひかり保育園、県社会福祉士会、四つ葉のクローバー、甲賀市社協、就労継続支援B型びあむらば、良の家、レイモンド大蔵保育園、長浜メディアケアセンター、八日市めぐみ保育園、特別養護老人ホームせせらぎ苑、近江八幡市社協、秦荘ケアプランセンター

湖東会場

彦根市地域包括支援センターハピネス、特別養護老人ホーム伊香の里、多賀町社協、野洲市社協、彦根市社協、秦荘ケアプランセンター、県高次脳機能障害支援センター、彦根市地域包括支援センターいなえ、県社会福祉士会、犬上ハートフルセンター、愛荘町社協

湖北会場

特別養護老人ホーム伊香の里、長浜市社協、特別養護老人ホームさざなみ苑、ニチイケアセンター湖北、NPO法人ひだまり、米原市社協 ケアプランセンター米原近江、ケアプランセンターりぶる、県社会福祉士会、特別養護老人ホームアタレス

高島会場

高島市社協、県健康医療福祉部健康福祉政策課、県社会福祉士会、特別養護老人ホーム奥びわこ、特別養護老人ホームふじの里、高島市障がい者相談支援センターコンパス、養護老人ホーム藤波園

圏域のなかで分野と所属を越えてつながり、課題を共有

地域の支援者交流会

目的

なにを目的にした、どんな事業か(概要)

制度のはざまや複数の課題を抱える人や家族へのトータルな支援を実現していくため、まずは福祉関係者が分野をこえて知り合い、つながりをつくり、それぞれの法人や施設、制度だけでは解決できない課題に気づき、共有する場として、圏域ごとに支援者交流会を開催しています。この交流会は、縁セ

ンター会員からそれぞれの圏域・分野で参加いただいている企画員と、市町社会福祉協議会から参加いただいている推進員とで企画会議を行い、それぞれの地域に応じた交流会のプログラムをつくっています。

大津圏域

- 平成27年11月24日(火) 於:明日都浜大津
- 参加者:22名

内容:

- ①大津市における居場所のない子どもの実態 (滋賀県スクールソーシャルワーカー 幸重忠孝氏)
- ②子どもの居場所づくりの実践 ~フリースペースカーサの取り組み~ (特別養護老人ホームカーサ月の輪 施設長 日比晴久氏)



グループ討議

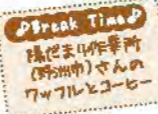
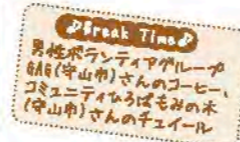
大津圏域では、市社協を核に学区社協やNPO等による子どもの居場所づくり・学習支援活動が始まりました。そこに縁モデル事業「フリースペース」や淡海子ども食堂が加わり、子どもを守る専門職と住民による協働実践がひろがっている状況と、地域貢献に踏み出した社会福祉法人の姿勢から学びやアイデアを深める交流会となりました。社会福祉法人と地域の組織が福祉課題と実践を話し合う場へと展開していく予定です。

湖南圏域

- 【第1回】 ●平成27年1月14日(水) 於:守山市社会福祉協議会 ●参加者:14名 ●内容:各施設の業務及び地域貢献の取り組み紹介
- 【第2回】 ●平成28年1月28日(木) 於:中主防災コミュニティセンター ●参加者:16名

内容:

- ①社会的養護について~児童養護施設を通して見る就労支援の現状~ (守山学園 五十嵐仁美氏)
- ②地域での子どもの居場所づくりの実践について~ゆうあい子どもカレー★食堂の取り組み~ (栗東市社会福祉協議会 本間由樹氏)

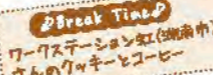


グループディスカッション

湖南圏域では、縁センターの会員同士が他職種のことを知り、課題を共有し、仲間としてみんなでやっていくという意識づくりから圏域交流会をはじめました。制度の狭間の課題や社会福祉法人の地域貢献という命題に対し、小さな一歩とコラボレーションによって解決していくアイデアがいくつも生まれました。この交流会も契機にしながら、子どもの居場所づくりに会場提供の形で関わるといった一歩を踏み出された法人も出てきています。

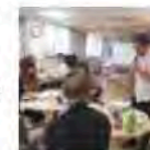
甲賀圏域

- 【第1回】 ●平成27年4月22日(水) 於:水口社会福祉センター 大ホール ●参加者:26名 ●内容: ①テーマ交流「スクールソーシャルワーカーから見た学校現場の現状、「子どもの貧困」の実態と施設と連携した子育て支援について」 (滋賀県スクールソーシャルワーカー/幸重社会福祉士事務所 幸重忠孝氏) (滋賀県スクールソーシャルワーカー 上村文子氏)



②グループディスカッション

- 【第2回】 ●平成27年8月20日(木) 於:特別養護老人ホームあぼし 地域交流スペース ●参加者:17名 ●内容: ①縁センターで動き出したさまざまな取り組みについて ・フリースペースの取り組みについて ・施設や里親のもとで育つ子どもたちの自立への支援 ・ひきこもり等の支援の取り組みについて ・子ども食堂の取り組みについて
- ②意見交換



湖東圏域

- 【第1回】 ●平成26年12月2日(火) 於:彦根市福祉センター 別館 ●参加者:22名 ●内容: ①アピールシートによる会員自己紹介 ②縁センターの取り組みについての意見交換

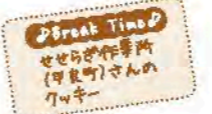
- 【第2回】 ●平成27年3月12日(木) 於:彦根市福祉センター 別館 ●参加者:19名 ●内容: ①交流ワークショップ 話題提供



- ・めぐみ保育園 園長 児玉恵子氏
- ・保育の現場から考える地域のつながりづくり、「子どもの貧困」について
- ・特別養護老人ホーム多賀清流の里 特養統括 居川勉氏
- ・地域と施設のつながりづくり
- ②意見交換



- 【第3回】 ●平成27年8月18日(火) 於:愛荘町立ラポール楽荘いきいきセンター ●参加者:28名 ●内容:交流ワークショップ



- ①ゲストスピーク「心の居場所のない子どもの実態」 (彦根市子ども家庭課 主査 久保貴彦氏) (滋賀県スクールソーシャルワーカー 上村文子氏)
- ②グループワーク「地域で何ができるか考えてみよう！」



湖北圏域

- 平成27年8月11日(火) 於:長浜市民交流センター ●参加者:27名 ●内容: ①子どもの貧困の実態について【総論】 (滋賀県スクールソーシャルワーカー/幸重社会福祉士事務所 代表 幸重忠孝氏)
- ②子どもの貧困の実態について【湖北圏域の現状】 (保護司/長岡保育園 園長 木船清千子氏) (長浜市スクールソーシャルワーカー 北岸理恵氏)



甲賀圏域では、これまでから「甲賀はひとつ」を合言葉に福祉実践がひろがってきました。それぞれの立場での仕事の中で課題が重なり合う世帯に直面し、「自分の仕事ではないけど何とかしたい」というまさに「制度のはざま」を実感しているという思いの共感から、圏域内のいろいろな動きにより「スピード感」と「チーム感」が生まれました。ひきこもりがちな人への支援やしんどさを抱える子どもへの支援など、小委員会でのモデル事業を進める中で、新たなつながりができています。

湖東圏域では、企画当初から「民生委員や老人クラブのみなさんにもぜひ声をかけたい」という声があり、第1回から各地域より参加いただいています。1市4町からなる湖東圏域は、「1つの町だけではなかなか動けない」という現状もあるなか、普段見えにくい「子どもの貧困」をテーマにした意見交換や、それぞれの立場での困りごとの共有をとおして、「湖東圏域の中でもっと分野を越えて一緒にやる」という雰囲気が高まりました。高齢者福祉施設からは、「スペースが空いているし、もっと地域のひとと一緒に活用していきたい」という声、保育園からは、「子どもを通した親とのかかわりから世帯全体の課題に気付くが、保育園ではそこまでの支援はできない」という声。こうした「もどかしさ」が、交流会を通して顔見知りの関係ができたことで、少しずつつながっています。

湖北圏域では、分野を越えて専門職がつながる第一歩として、「子どもの貧困の実態」をテーマに交流会が企画されました。学校現場のスクールソーシャルワーカーや保護司から子どもの実態を聞き、湖北圏域で子ども食堂のような居場所づくりが取り組めそうなこととして意見が出されました。湖北圏域ならではの課題の「見えにくさ」はあるものの、みんながつながりながら「実践してみよう」という機運が高まりつつあるなか、子ども食堂の取り組みを中心に様々な実践の輪が広がっています。

「何かあったらここにおいて」地域の施設が 子どもの居場所に!

社会福祉施設を活用した 子どもの夜の居場所“フリースペース”

目的

なにを目的にした、どんな事業か(概要)

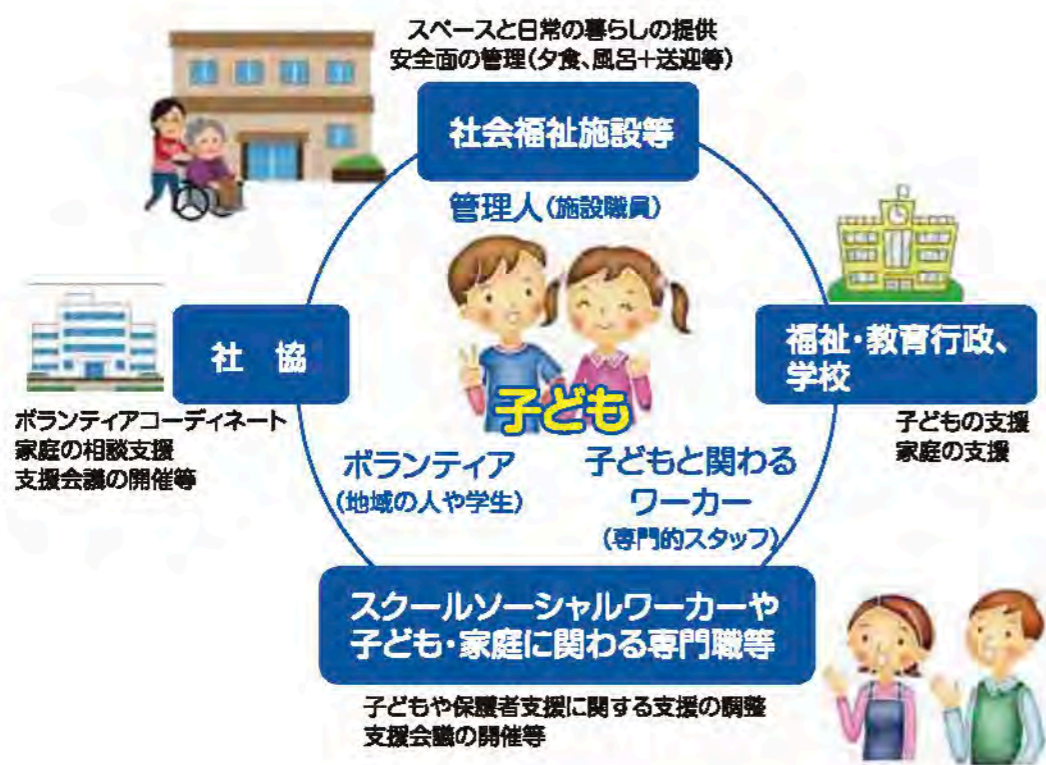
地域のなかには、さまざまな事情から学校に行きにくくなっていたり、家庭の中に安らぎがなかったり、また子どもらしく大人に甘えることができないといった状況にある子どもたちがいます。こうしたさびしさやしんどさを抱えている子どもたちを見守ってくださっている地域の方たち、関係機関の方たちからは、地域で子どもを支える場がもっとも必要という課題提起があがっていました。

フリースペースは、24時間人がいて、あたたかいご飯があって、お風呂がある地域の社会福祉施設を拠点に、さびしさやしんどさを抱えている子どもが、安心して信頼できる大人とのびのび過ごせる夜の居場所です。

県教育委員会が市町に配置したスクールソー

シャルワーカーや子ども・家庭にかかわる専門職がフリースペースへのつなぎ役となり、保護者や子ども支援にかかわる関係機関と利用の調整を図ります。フリースペースにつながった子どもは、週に1回夕方から夜の時間を地域のボランティア等の大人と1対1のかかわりの中で過ごします。ボランティアでは対応が難しく、個別的なかかわりが必要な場合は、子どもとかかわるワーカーが対応します。

子どもの背景にある家庭の困りごとやボランティアの発掘、呼びかけは地元の社協や行政と連携するなど、困っている子どもを真ん中において、高齢や障害等の社会福祉施設、スクールソーシャルワーカー、地域のボランティア、社会福祉協議会、学校、教育・福祉行政等がひとつの運営チームをつくり実践しています。



エピソード 活動者の声

子どもの思いに寄り添い、「指導」ではないかかわりのなかで、安心感や安全感を子ども自身が感じとっています。そして生まれたこんなエピソード。

●エピソード①

～フリースペースから将来の一歩～

進学を諦めていた中学生の女の子が、「高校に行けるんなら行きたい」「高校に行ってもここにくる」と伝えてくれました。そして、彼女から「働いてみたい仕事ランキングの第3位は、カーサ(特別養護老人ホーム カーサ月輪:拠点施設)かな」と一大発表。いつも一緒にフリースペースの時間を過ごしている施設の職員さんが、身近なあこがれに。

●エピソード②

～だんだん学級に入れるように～

過去にいじめを受けた経験や複雑な家庭状況により、学校に行きにくくなっていた小学生の男の子が、相談室に行けるようになり、だんだん学級にも入れるようになってきました。運動会や修学旅行等の学校行事にも、本人のペースで徐々に参加できるように。学校では先生にフリースペースの話をしたり、フリースペースでは学校での出来事も話してくれる機会が増えました。

●エピソード③

～素直に謝れるように～

フリースペースの振り返り会議で、学校の先生からともうれしいお話が届きました。今までなかなか素直に謝ることができなかった男の子が、学校で「ごめんなさい」と言えたのだそうです。親御さんと先生、そして地域のボランティアさんも自分のことを大事にしてくれるという安心感やうれしい気持ちが、もっとも増えると思えます。

●エピソード④

～大家族のあたたかさ～

小規模施設でのフリースペースは、施設を利用しているお年寄りとの距離が近いのが特徴です。高齢の方ならではのゆったりとした空気が子どもの気持ちにぴったりと合い、お互いにフリースペースの時間が楽しくなっています。

●エピソード⑤

～食べられなかった料理が食べられるように～

施設の夕食ではなかなか普段の生活では食べていない「普通のおかず」が出てきます。ご飯とおつゆ、そしておかずをゆっくりといただくという生活の経験ができる場となっています。「ごちそうさま」と食器を返しにいけるようになった子どもたちがいます。

●エピソード⑥

～ボランティアの方たちも気負わず、のびのび～

「私にできるかしら…」とちょっと不安を抱えながら、「子どもの笑顔は素敵!笑顔が出る場をいっしょにつくろう」とボランティアとして活動に参加して下さっている、地域の方たち。1週間に数時間の時間をつくって下さるなかで、子どもの喜怒哀楽を受け止め、子どもの内面を気にかけていただいています。SOSをキャッチするアンテナをもつ地域の人が増えてきているのだらうなと思えます。

●エピソード⑦

～さすが福祉の職場で働く方たち!～

施設のボランティアコーディネーターや生活相談員、ケアマネジャーとして活躍している職員さんたちが、地域とともにある社会福祉法人の職員として「子どもたちのために安心して楽しい居場所をつくりたい!」と施設長に提案され、法人として責任もって活動に取り組もうと動きだした施設があります。社会とつながる職員チームをつくられた施設もあります。福祉を志す人たちの思いが制度の枠を超えて実現できる職場を増やしていきたいと思えます。



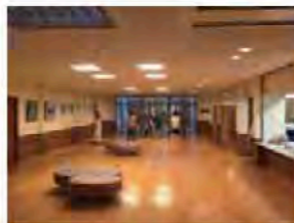
事業(活動)をともにすすめている方

①フリースペースカーサ



- ・特別養護老人ホームカーサ月の輪
- ・地域のボランティア(元児童養護施設職員、元保育士等)
- ・龍谷大学公認サークルトワイライトホーム
- ・スクールソーシャルワーカー
- ・幸重社会福祉士事務所
- ・大津市社会福祉協議会

平成27年3月スタート
毎週火曜 17:30~21:00
中学生1名、小学生4名、
未就学児1名が参加



②フリースペースかなで



- ・小規模多機能型居宅介護事業所 時間の奏
- ・地域のボランティア(元保育士等)、株式会社六匠職員
- ・スクールソーシャルワーカー
- ・幸重社会福祉士事務所
- ・大津市社会福祉協議会

平成27年7月スタート
毎週金曜 17:00~20:00
小学生1名、未就学児1名が参加



③フリースペースせせらぎ



- ・特別養護老人ホームせせらぎ苑
- ・地域のボランティア、地域の専門職
(権利擁護にかかわるソーシャルワーカー、若者支援にかかわる専門職、ケアマネージャー、民生委員児童委員等)
- ・甲賀市社会福祉協議会
- ・甲賀市立甲南第一小学校
- ・甲賀市教育委員会事務局
- ・スクールソーシャルワーカー
- ・甲賀市社会福祉課
- ・甲賀市生活支援課
- ・甲賀市子ども応援課

平成27年9月スタート
毎週火曜 17:30~20:45
小学生3名が参加

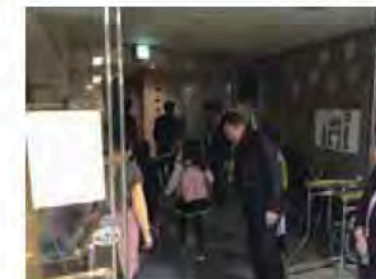


④フリースペースひこねふるさと



- ・障害者生活支援施設ふるさと
- ・地域のボランティア
(元教員OB、民生委員児童委員、学生等)
- ・彦根市社会福祉協議会
- ・彦根市教育委員会事務局
学校教育課学校支援室
- ・スクールソーシャルワーカー
- ・彦根市子育て支援課

平成28年2月スタート
毎週水曜 17:30~20:00
小学生2名が参加

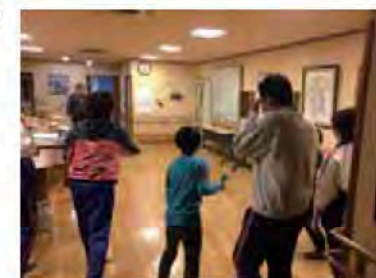


⑤フリースペースアイリス



- ・特別養護老人ホーム近江舞子しょうぶ苑
- ・地域のボランティア(民生委員児童委員等)
- ・スクールソーシャルワーカー
- ・幸重社会福祉士事務所
- ・大津市社会福祉協議会

平成28年2月スタート
毎週木曜 17:00~20:00
小学生2名が参加

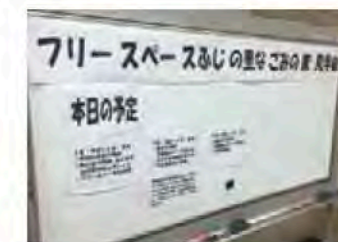


⑥フリースペースふじの里なごみの家



- ・特別養護老人ホームふじの里なごみの家
- ・地域のボランティア(教員OB、元保育士等)
- ・高島市社会福祉協議会
- ・高島市立青柳小学校
- ・高島市教育委員会事務局学校教育課
- ・スクールソーシャルワーカー
- ・高島市社会福祉課
- ・高島市子ども家庭相談課

平成28年4月スタート
毎週水曜 17:30~21:00
中学生が1名、小学生4名が参加



児童養護施設や里親のもとで暮らす子どもたちの自立を企業・事業所が応援!

展開

どんな展開、ひろがりをしてきたか(プロセス)

地域で暮らす様々な人に居場所のニーズがあるなか、小委員会では、リーダーが所属する施設において実施されているセミナー(地域住民、施設職員等が参加)のなかで、「地域の居場所としての特養の活用」をテーマに地域のニーズを出し合ったところ、ある地域住民から「不登校の子どもやその親の居場所として施設を活用できないか」と提案がありました。そこで、学校現場のスクールソーシャルワーカーや保育の現場から、学校や家庭に居場所のない子どもたちの実態について知り、本格的な体制づくりが始まりました。

現在、4市6施設に広がるフリースペース開設のきっかけは様々で、学校の先生やスクールソーシャルワーカーが「ランドセルのなかに家庭の困りごとをいっぱい詰めこんで学校に通ってきている子どもに居場所をつくりたい」という声がかきつけとなったり、施設側から「学校や家庭に居場所のない子どものためになにかできないだろうか」という声等から体制づくりがはじまりました。

「目の前で困っている子どもを放っておかない」という思いに共感した専門職や施設を中心に、フリースペースづくりが広がっています。

▼1日のスケジュール(例)

- 17:30 子どもの到着
- 17:30~ 持ってきた宿題や遊びの時間
学校の宿題は、大人も一緒になって考えます。施設の中でバドミントンや野球も!
- 18:00~ ご飯の時間
夕食の時間は、みんなで食卓を囲みます。施設のあったかくて栄養満点のご飯は大人気!
- 19:00~ お風呂の時間
大きくてあったかいお風呂では、気持ちも体もリラックス☆
たくさんの会話が生まれます。
- 19:30~ 自分の時間をゆっくり過ごそう
みんなでゲームをしたり、施設のピアノを弾いたり、話に盛り上がり、
子どものやりたいことになるべく応えます。
- 21:00 子どもの帰宅
- 21:00~ 振り返りの時間
「今日こんなこと気づいた」「こんな時どうしたらいいのかな?」「こんなことしたら喜んでくれるんちゃうかな?」子どもとかかわるなかで気づいたことや戸惑ったこと、今後の計画等、かかわるスタッフみんなで振り返りを行います。

メンバー

居場所づくり小委員会(平成27年度)

- 日比 晴久(特別養護老人ホームカーサ月の輪 施設長)
- 梅本 剛雄(滋賀県教育委員会事務局学校教育課生徒指導・いじめ対策支援室室長)
- 遠藤 貴美代(草津市立第五保育所 所長)
- 澤 和記(特別養護老人ホームふじの里 主任介護支援専門員)
- 田中 雄一(米原市社会福祉協議会 地域福祉課長)
- 土淵 孝(滋賀県健康福祉政策課 課長補佐)
- 中沼 孝博(グループホームみなくち 施設長)
- 安武 邦治(社会福祉法人グロー 企画推進課長)
- 吉田 京子(特別養護老人ホームけやきの杜 介護支援専門員)

ハローわくわく仕事体験

目的

なにを目的にした、どんな事業か(概要)

滋賀県では、約350人の子どもたちがさまざまな理由で親と一緒に暮らすことができず、施設や里親・ファミリーホームのもとで暮らしています。児童養護施設入所児童では、約7割が被虐待児童(県子ども・青少年局調べ)であり、18歳で退所を迫られると、容易に親に頼れない中、一人で自立していくことになります。また、滋賀県児童福祉入所施設協議会調査研究部会の調査によると、自立後、就労しても半年で仕事をやめている、あるいは転職している児童が半数を超えており、同時に住む場所を失う

など、支援を要する児童が多いのが現状です。そこで、早くから職業観を育み、施設や学校以外で信頼できる大人と出会い、それが彼らの土台になると考え「ハローわくわく仕事体験」が動き出しました。これは、中高生が自ら希望する企業のもとで3日程度就労体験を行い、ふりかえりをしながら自信をつけていく取り組みです。同時に、社会的養護の子どもたちを取り巻く現状について社会に広く正しく知ってもらうための取り組みでもあり、啓発も込めた事業展開を行っています。

展開

どんな展開、ひろがりをしてきたか(プロセス)

事業をはじめめるにあたり、中小企業を中心とした「応援団づくり」から始めました。最初に行ったのが「企業と現場職員との懇談会」。子どもたちの現状を知った企業の皆さんが、「地元企業としてできることはあるはず」と知恵を貸してくださり、社会的養護の現場とすり合わせながら、平成27年度の事業スタートへとつながりました。

東京で先進的に取り組んでおられるNPO法人の力を借り、中高生向けにモチベーションアップや体験に向かうきっかけとなる企画を行い、合わせて、滋賀県中小企業家同友会の各支部の例会でPRさせていただくなど、子どもたちを受け入れてくださる企業の開拓をしながらすめています。(下図)

(推進体制) ★子どもが社会とつながることをみんなで応援



①キャリアアップセミナー第1弾

「働くってどんなこと？自分の“好き”を見つけてめざす姿を考えよう〜」

講師：NPO法人ブリッジフォースマイル

【職員向け】7月3日(金)@鹿深の家 ※31名参加

【中高生向け】7月11日(土)@小鳩の家

※中高生12名、付添・職員19名参加

②中高生向けキャリアアップセミナー第2弾

講師：NPO法人ブリッジフォースマイル

日時：平成27年11月28日(土) @さざなみ学園

参加：中高生18名、付添職員・里親等15名参加

③中高生向けプロフェッショナルセミナー

ゲスト：(株)ピアライフ、(株)エフアイ、宮川パネ工業(株)、

(有)ロング、(株)国華荘びわ湖花街道 (5社)

日時：平成27年12月12日(土) @湘南学園

参加：中高生20名、付添職員・里親等15名



【要養護児童の自立支援小委員会(平成27年度)】

山本 朝美(滋賀県児童福祉入所施設協議会 理事)

元藤 大士(滋賀県里親連合会 会長代行)

杉山 真智子(NPO法人四つ葉のクローバー 理事長)

破瀬 勝(社会福祉法人さざなみ学園 次長)

佐藤 章(社会福祉法人大津市社会福祉協議会 次長)

大久保 法彦(滋賀県健康医療福祉子ども・青少年局 副参事)

梅川 香奈子(滋賀県健康医療福祉子ども・青少年局 主事)

【ハローわくわく仕事体験推進委員会(平成27年度)】

山本 朝美(児童養護施設 小鳩の家 施設長)

廣瀬 直子(こぼと子ども家庭支援センター 相談員)

五十嵐 仁美(児童養護施設 守山学園 主任支援員)

牧田 愛(児童養護施設 湘南学園 主任)

石田 一樹(児童養護施設 鹿深の家 主任)

遠城 孝幸(社会福祉法人さざなみ学園 副主任ケアワーカー)

廣田 敬史(自立援助ホーム BiTS-Unit 代表)

エピソード

活動者の声

【施設職員】

●自分で希望したものの、当日になるとやっぱり緊張して足がすくむ子ども…。大丈夫かなと心配しましたが、1日目を終えて「また行きたい」と嬉し涙を流して帰ってきた姿をみて、この取り組みの意味を強く感じました。お客様から褒められたり、時には注意されたり、チームで働く会社のみなさんから、一人ひとり、自分なりに働くことの意味を感じ取って帰ってきています。

●普段、施設や学校では見せない一面を知ることもあります。自分で毎朝起きて、電車とバスを乗り継いで3日行

ききったことは、本人にとっても自信になり、なにより職員が驚かされました。どんな風に体験中を過ごしていたのかを企業の方と共有させてもらえるので、日常のかかわりに生かしていきたいです。

●施設の中で誰かが「楽しかった!」と体験を終えてくると、「自分も行ってみようかな」と次へ続く児童がでてきました。

●何より企業の方の思いに感謝。無理をお願いして子どもの予定に合わせて日程を調整してもらい、その子に合わせたかかわりを丁寧にしてくださる。こうして少しずつ社会で理解がすすんでいけば、送り出す施設としてこんなに心強いことはないです。

【体験した中高生】

●職場体験をさせていただきありがとうございました。ぼくは働くとはどういうことなのか勉強させていただきました。働くとは、お金のためののか、自分のためののか、家族のためののか、を考えながら働く事を仕事だと思います。ぼくは今回の仕事体験をさせてもらって、将来、人に対する態度を丁寧にしたいと思いました。(中1)

●人が働く意味と、人はお互い助け合っていないといけないと思いました。次は声を出していきたいです。(中1)

●はじめは、どんなお仕事をするのかわからなくて緊張しましたが、気にかけて話してくださり、うれしく感じました。一番心に残っていることは、社長の話です。社会に出るのはもう少し先のことですが、今回の体験をとおして自分の将来について考えていこうと思います。本当にありがと

うございました。(高1)

●おじいさんとおばあさんと話をしたり、関わる事ができて楽しかったです。(中2)

※体験後も継続して高齢者施設にボランティアとして参加しています。



【企業】

●はじめは、「NGワードはある?傷つけてしまうことがあったらどうしよう?」と不安でした。でも、事前に施設職員と中高生の情報を共有してからのもめすし、なにより子どもの頑張る姿やいきいきとした表情に励まされ、むしろこちらから楽しく受け入れることができました。そして、会社の中でも新人に「教える」ということを通して従業員も成長でき、職場の雰囲気も明るくなりました。

●2日目から来られなくなった子どももいました。でもそれは、自分の気持ちに気づき、その気持ちを素直に言えたということ。しっかり連絡もくれましたし、すごく大事な一歩。

●体験が終わってから、元気になっているかなと気になって施設に顔を出すと、ちゃんとあいさつしてくれる。手紙もくれました。こうやって関係が繋がっていくことは、すごく大事だと思います。

実際に体験にいった中高生が企業にもらった礼状です(中学生)





事業活動をともに進めている方たち、協力者、参加者等

○懇談会で貴重な意見交換をしてくださった皆様

村田健二さん(村田自動車工業所)、田中康嗣さん(守山野洲少年センター)、
中山みち代さん(社会福祉法人パレット・ミル)、谷口剛さん(元三フード(株))
石田裕子さん(石田鋳造所)、河村典宏さん(株式会社ワイズ関西)

○中高生向けプロフェッショナルセミナーへの協力(平成27年度)

中村重哉さん(株式会社ピアライフ 総務部)
宮川絵理子さん(宮川パネ工業株式会社 専務取締役)
北野裕子さん(株式会社エフアイ 代表取締役)
土山 薫さん(有限会社ロング 代表取締役)
岡田智恵美さん(株式会社国華荘びわ湖花街道 社長室 次長)

○「ハローわくわく仕事体験」協力企業 73企業・事業所(平成28年3月末日現在)

- <大津市> (株)村田自動車工業所/(福)せんだん二葉会 せんだん保育園/(株)国華荘びわ湖花街道/
(株)ピアライフ/ニューワズ(株)/(株)古川与助商店/(有)ロング/(株)六匠/滋賀双葉
ビル整備(株)/(福)真盛園 小規模多機能型居宅介護事業所「良の家」/(福)幸寿会 (特養)
カーサ月の輪/(福)大津市社会福祉事業団 (特養)椋原の里/(福)楽樹(特養・デイサービス)
湖の花/(福)美輪湖の家大津/(福)小鳩会小鳩乳児院
- <彦根市> ウイングフルカワ/(福)近江ふるさと会 (特養)近江第二ふるさと園/(有)アップU彦根
- <長浜市> (福)まんてん (特養)まんてん塩津/(福)まんてん グループホームまんてん塩津/
(福)まんてん まんてん小谷/(福)グロー (特養)ふくら/(福)達真会 (特養)けやきの社/
(株)渡辺工業/(株)クローバー
- <近江八幡市> (株)安土建築工房/前出産業(株)/(福)グロー 老人ホーム安土荘/
- <草津市> (福)ほのぼの会 グループホームしのだ(福)/(株)和た和/(福)一善舎(特養)赤煉瓦の郷
(株)アサノ/(福)みのり (特養)ぼぶら・なみき/(株)江州/(株)エッセン
- <守山市> (株)カロカ急配/(福)慈恵会(特養)ゆいの里/(福)あけぼの会はずねだこども園/(有)富線
- <栗東市> (株)びわ湖タイル/(株)エフアイ
- <甲賀市> (福)あいの土山福祉会 デイサービスエーデル土山/(福)甲南会 (特養)せせらぎ苑/
(有)カーテックウカイ/(株)ティグ水口/日本ロジバック(株)
- <野洲市> (特非)陽だまり/(福)野洲慈恵会 (特養)悠紀の里/東洋産業(株)/アオキエージェンシー(株)
- <湖南市> (福)近江和順会 (特養)ヴィラ十二坊・小規模特養「百伝の杜」/
(福)近江ちいろば会 ケアハウス ピスガこうせい
- <高島市> (福)ゆたか会 さわの風/(福)ゆたか会 (特養)清風荘
- <東近江市> (有)山田保険事務所/(株)プライウッド・オウミ/宮川パネ工業(株)/(株)三省堂/(福)八身
福祉会/(有)伊徳織物整理工場/メリーポエム洋菓子店/(株)小杉自工/(福)日野友愛会
(特養)沖野原/(株)瀬亀工務店/(有)田邊工務店
- <米原市> 力興木材工業(株)
- <日野町> (福)グロー 老人ホームさつき荘
- <竜王町> (株)大鋼製作所/さいとう助産院
- <愛荘町> 滋賀建機(株)
- <豊郷町> 油藤商事(株)
- <多賀町> (福)湖東会 (特養)いぬかみ/(福)達真会 多賀清流の里

○啓発ハンドブック作成協力

るーしー小林(マンガ)

○団体

滋賀県里親連合会、滋賀県中小企業家同友会、NPO法人ブリッジフォースマイル(東京都)

<体験実施状況>

体験児童	日程	体験先	内容等
①夏休み(7月~8月) 2施設、1ファミリーホームから、延べ10人(実人数8人)が体験。			
1	高1・男子	7月27日~29日	(株)カロカ急配(守山市) トラックに同乗、荷物の整理等
2	高1・男子	8月3日~5日	トラットリア・テラ・メーラ(草津市) 飲食店でのお手伝い、接客
3	中1・男子	8月10、11、19、22日	(株)小杉自工(東近江市) 自動車整備のお手伝い、清掃等
4	中1・女子	8月13、27日	びわ湖花街道(大津市) 旅館業(主にお出迎えと送り出し)
5	中2・男子	8月6日~8日	(有)ロング(大津市) たこ焼きの調理、販売
6	高1・男子	8月26日~28日	(株)村田自動車工業所 ※本児の希望により3日目は中止
7	中1・女子	8月12日~13日	(株)エッセン ※本児の体調不良により中止
8	中1・男子	8月24日~25日	(株)村田自動車工業所(大津市) 自動車の整備、洗浄のお手伝い
9	中1・男子	8月20日~22日	びわ湖花街道(大津市) 旅館業(主に浴場の清掃等)
10	中2・男子	8月23日~25日	(株)ニューワズ(大津市) デイサービスでのお手伝い
11	高3・女子	8月24日~26日	小鳩乳児院(大津市) 子どものお世話等
②冬休み(12月) 2施設、1ファミリーホームから5人が体験。			
1	中1・男子	12月28日~30日	びわ湖花街道(大津市) フロント業務、お手伝い等
2	中2・男子	12月30日	(株)割烹 江州(草津市) おせち料理詰めのお手伝い
3	中1・男子	12月28日~29日	(有)ロング(大津市) 店舗の清掃、たこ焼きの調理等
4	中1・男子	12月28日~30日	びわ湖花街道(大津市) フロアまわりの仕事、お手伝い等
5	中2・男子	12月28日	(株)油藤商事(豊郷町) ガソリンスタンド業務
③春休み(3~4月) 3施設から9人が体験。			
1	高2・男子	3月25日~30日	(株)和た和(近江八幡市) 喫茶での接客、和菓子販売等
2	高1・女子	3月29日	近江第二ふるさと園(彦根市) 利用者の話し相手、車いす介助等
3	中3・女子	4月5日~6日	カーブス(アルプラザ彦根店) 清掃、声掛け、運動体験等
4	中3・女子	4月6日	カーブス(アルプラザ彦根店) 清掃、声掛け、運動体験等
5	中2・男子	3月25日~4月6日(5日)	(株)油藤商事(豊郷町) ガソリンスタンド業務
6	高1・男子	4月4日~6日	トラットリア・テラ・メーラ(草津市) 飲食店での接客、洗い場等
7	高1・女子	3月29日~31日	小鳩乳児院(大津市) ※感染症予防のため後半2日間は中止
8	中3・男子	4月4日~6日	(株)村田自動車工業所(大津市) 自動車の整備、ワックスがけ等
9	高2・男子	3月30日~4月1日	アップU彦根 解体現場、見慣れり等の同伴
小学生のボランティア・交流体験			
体験施設	日程	体験先	内容等
1	小鳩の家	4月6日	良の家(小規模多機能型居宅介護事業所)(大津市) 利用者との交流
2	湘南学園	4月4日	(株)ティグ水口(甲賀市) 溶接工場の見学等

中小企業の方々のネットワークで、「滋賀の子どもたちのために、地元の企業として社会的責任を果たしたい」と、
圏域を越えて応援の輪が広がっています。いろんな企業
の社長のみなさんで児童養護施設を見学して意見交換
会をしてくださったり、企業同士の集まりの場で企業自
ら社会的養護の子どもたちのことを発信してくださった
りと、体験受入れだけではないつながりがどんどん生ま
れていることが何より心強いことです。

ひきこもりがちな人や家族のココロへのアプローチ

ひきこもりがちな人やその家族に支援を届ける「甲賀モデル事業」

目的

なにを目的にした、どんな事業か(概要)

ひきこもりは、本人から相談があることは少なく、まわりが気づいていても具体的な支援が見つからなかったり、本人にかかわるタイミングが難しかったり、なかなか支援につながらないのが現状です。また、「なぜこんなことになってしまったのか」「どうにかして社会に出てほしい…」と悩んでいる家族も、相談できずに孤立していることも少なくありません。

そこで、「外に出るのが怖い」「今は自宅にいる方がいい」「働きたい気持ちはあるけどいきなりは心配」など、悩んでいる人、またその家族に、現行の福祉サービスだけでは届けられない支援を届けることを目的に、アウトリーチや居場所づくりをすすめています。

展開

どんな展開、ひろがりをしてきたか(プロセス)

甲賀モデル事業は、「制度だけではどうにもできない。継続して、かついろんな機関と連携して支援を届けられる仕組みがつくれないか」と普段の業務の中でもどかしさを感じている相談員の思いや、「家族も支援を求めている」という地域の声から始まりました。縁センターの会員でもある社会福祉法人さわらび福祉会が主体となり、まずは圏域(甲賀市・湖南市)内で呼びかけ、チーム(甲賀モデル事業運営会議)ができました。運営会議には、両市の民児協、社協、市、甲賀保健所が参画し、それぞれの立場でケースにもかかわっています。また「ひきこもり=悪いこと」のようなネガティブなイメージではなく、「もっと理解してほしい」という家族や支援者の思いから、地域で理解をすすめるための啓発活動もしています。

アウトリーチで専門的・中心にかかわる相談員を1名配置し、10月から訪問支援・縁サロンがスタートしています。

「働く」ことを切り口としたアプローチに学ぶご家族・応援団交流会

甲賀でのモデル事業スタートに先立ち、当事者家族や支援者が圏域を越えて知り合う場として企画。

【第1回】●平成27年2月18日(水)

於:薪遊庭(東近江市)他
●参加者 13名(支援関係者)

【第2回】●8月3日(月)10時～

於:百済寺(東近江市)他
●参加者 18名(保健所、相談支援センター、社協等の支援関係者、当事者家族)

★協力:野々村光子 さん
(東近江働き・暮らし応援センター「Tekito」センター長)
山口美知子 さん
(東近江市 総務部まちづくり協働課 主幹)
村山英志 さん(薪遊庭 社長)



▲かっこいい「働きもん」に出会う



▲支援者や家族が立場や圏域を越えて交流

事業内容

①支援を届ける訪問支援(アウトリーチ)の実践

現行の福祉サービスや既存の支援につながらず、ひきこもりがちな暮らしをする方に対し、個別支援計画に基づいた訪問支援(アウトリーチ)を行います。自宅への定期的な訪問や、本人の興味関心に基づいた同行支援などにより、本人の思いに寄り添い、少しずつ社会とのつながりを増やしていく取り組みです。



運営会議メンバーによるモデルケース会議を定期的開催し、アセスメントをはじめ、ケースの進捗状況や支援の方向性を確認したうえで、関係機関と連携しながら活動しています。

②本人・家族の居場所づくり(縁サロン)

自宅以外で安心して過ごせる場、自分のペースで物事に取り組める場として、個別または少人数で過ごせる空間を提供しています。(毎週土曜日開催)



平成27年9月に開所した、さわらび福祉会が運営する生活訓練事業所「スポットライフくればす」の場所を活用して開催しています

③家族交流・学習会の開催

当事者家族の交流の場や、県内外の取り組みを学び合う機会をつくります。当事者家族としての立場だけではなく、ご家族自身も「私」でいられる場づくりを考えています。

④地域啓発および当事者からの発信

ひきこもりがちな暮らしをする方の抱える課題やそれに対する支援を、広く市民や地域に呼びかけ理解と協力を得られるよう、福祉関係者からだけではなく、当事者・経験者が発信できる場や、ピアサポート(当事者同士の支え合い)もつくっていきます。



アウトリーチやサロンでかかわっている相談員のコトバから

- 「こうしたい、こうありたい」と、自分の願いを表出することが、その人にとって大きな一歩であり、夢、希望を実現させていくことへの道のりで、その人が必要とするときにフォローと後押しをするのが私たちの役目です。
- 約10年間ひきこもりがちな暮らしをされていた女性。訪問からのかかわりをはじめ、作業所へつながら、今は一人暮らしをスタート。物静かにみえる彼女が、人とのかかわりを通してよく泣き、時に怒り、でもよく笑うようになりました。その人間味あふれる一生懸命な姿に、支援でかかわる私たちも前向きなエネルギーをもらっています。
- 彼女のまわりには、彼女の成長を喜び、見守る多くの支援者がいます。彼女がつなげてくれたネットワークは、私たちの強みでもあります。



ひきこもり等の支援小委員会(平成27年度)

- 金子 秀明(社会福祉法人さわらび福祉会 常務理事)
- 丸山 英明(滋賀県健康医療福祉部障害福祉課 参事)
- 太田 珠美(湖南地域障害者生活支援センター 相談課長)
- 野々村 光子(働き・暮らし応援センター“Tekito-” センター長)
- 西野 一道(社会福祉法人高島市社会福祉協議会 就労支援員)
- 山岡 伸次(社会福祉法人長浜市社会福祉協議会 地域福祉コーディネーター)

甲賀モデル事業運営会議(平成27年度)

- 金子 秀明(社会福祉法人さわらび福祉会 常務理事)
- 北出 篤嗣(社会福祉法人さわらび福祉会 相談員)
- 浅村 絵理(甲賀保健所 主任保健師)
- 大井 恭子(甲賀保健所 主任保健師)
- 富岡 正義(甲賀市民生委員児童委員協議会 会長)
- 市川 徹二(湖南市民生委員児童委員協議会 会長)
- 湯次 耕大(甲賀市社会福祉協議会 相談支援課長)
- 奥野 修司(湖南市社会福祉協議会 生活福祉課長)
- 田中 俊之(甲賀市 生活支援課 課長補佐)
- 猪飼 豊(湖南市住民生活相談室 室長補佐)
- 大西 裕紀子(甲賀市障がい福祉課 保健師)
- 脇田 留梨子(湖南市社会福祉課障害福祉担当 保健師)
- 伊地知 利佳子(湖南市社会福祉課障害福祉担当 保健師)
- 山崎 秀樹(社会福祉法人さわらび福祉会スポットライフくれぱす 所長)
- 安部 恵理(社会福祉法人さわらび福祉会スポットライフくれぱす 副所長)

私たちがめざすもの

一人ひとりの生きづらかった過去に思いを寄せながら、根っこにある一人ひとりの力、思い、可能性を引き出せるような「ココロへのアプローチ」こそ、私たちが時間をかけてでも取り組もうとしていることです。その過程が、自己肯定感を取りもどし、一人ひとりの自己実現へつながっていくことを信じています。ひきこもらざるをえなかった人たちが、ひきこもることなく安心してらせる「まち」、働いていなくても、堂々と暮らせる「まち」をつくりたい。

エピソード ひろがりポイント

●10月10日(土)、サンビルス甲西(湖南市)にて開催した甲賀モデル事業および「スポットライフくれぱす」開所式には、県の担当課や甲賀圏域を中心とした支援関係者だけでなく、当事者やご家族、地域の方がたくさん参加されました。

●平成27年7月からほぼ毎月1回ペースで開催している運営会議では、甲賀モデル事業に関してのみではなく、関連する圏域内のさまざまな動きをリアルタイムに共有し、取り組みがにつながる場としても機能しています。

子ども食堂(湖南市石部南学区)、学習支援事業(甲賀市)、フリースペースせせらぎ(甲賀市)、信楽だんだん畑(当事者の居場所、甲賀市)等、ひろげ方やそれぞれの課題を共有しながらすすめることで、新たなアイデアも生まれています。また、運営会議があることで、既存の資源(保健所で取り組んでいる家族会等)の活用がスムーズにできるようになりました。

●社会の関心も高く、メディアも活用しながら少しずつ、地道に発信しています。平成27年12月、1月には、NHKの取材を受け、情報番組での特集(おうち630、おはよう関西)で放送されたことがきっかけで、当事者やご家族の方から多数問い合わせが入りました。甲賀モデル事業としては、基本的には圏域内の方へのアウトリーチを基本としていますが、圏域外の方でも、悩みながらも相談してこられた方の思いを大事にしながらいったん相談をお聞きし、必要な支援機関につなげる等の広域調整の役割も担っています。新たなケースについては、いったん市の窓口で情報を集約し、関係機関と連携しながら初期アセスメントを行います。



●3月4日に開催した「甲賀モデル事業実践報告会」では、アウトリーチを通しての事例を紹介し、数字では測れない、一人ひとりのかかわりを通して見えてきた大きな成果と、そこから支援者が教えられたことについて、県域や立場を越えて参加いただいた100人を超える人たちと共有する時間になりました。甲賀モデル事業の発信をとおして、他の圏域においても行政や民間福祉関係者がこのような取り組みの必要性を強く感じ、意見交流をしながら、新たな動きもはじまっています。



生きづらさを抱える人の「働きたい」を応援

はたらく 傍楽体験事業

目的

なにを目的にした、どんな事業か(概要)

障害福祉や生活困窮者自立支援、若者支援等の制度等で「働きたい」と思っている人への支援は整備されていますが、一般就労まで距離のある人、一般就労をゴールとしない人等、働きづらさを抱えた人への柔軟な支援は制度だけでは対応が難しい現状があります。

傍楽体験事業(「働きたい」を応援事業)は、そのような働きづらさを抱えた人が、「働くこと」を切り口

に参加できる場所、人や社会とのつながりを感じられる場所、役割を感じられる場所、少しでも働いた対価をもらえる場所、自分の働き方を見つけるためにチャレンジできる場所として、滋賀県内それぞれの地域で小さな結びつきの中でできる働く場、機会をつくる事業です。受入事業所と相談支援事業所で連携しながらすすめます。

展開

どんな展開、ひろがりをしてきたか(プロセス)

- 雇用側・受け入れ側としての企業の話を知る
株式会社平和堂、旭化成住工株式会社
- 県内ですでに実施されている「制度の対象とならない人たちが参加できる働く場」を見学
チームほたる(若年認知症の人たちのケアとしての働く場:長等ほたるの家)
三井寺環境整備事業(三井寺と滋賀県社会就労事業振興センター)
S&S(スマイル&スタンド 制度にとらわれない小さな働く場:東近江市社会福祉協議会)
- 生活困窮者自立支援制度の担当部署や社協の相談担当の協力を得て、自立支援や働く場づくりに関する現状と課題を整理
- 組織や事業所の工夫でつくれる小さな働く場のプレ企画を滋賀県社協で実施
・県社協内で部門横断若手職員によるプロジェクトチームをつくり、それぞれがどんな仕事を助けてほしいと
思っているかを出し合った。
・滋賀県地域若者サポートステーションの朽木さんを講師に、若者支援の現状と課題、どんな場であれば
よいか等について学び、交流した。
・毎月2回程度、県社協の困りごとを県地域若者サポートステーションに登録している若者に助けてもら
うしくみで「傍楽体験」を実施。11月から3月までの間、11回実施
- 東近江圏域の社協(2市2町)では働く場づくりについての学習会を企画実施された。県社協のプレ企画も報告。

【どんな仕事を助けてもらった?】一斉発送作業、福祉学習用車いすのメンテナンス等

【一日の流れは?】10時~12時 仕事
12時~13時 皆で昼食
当日分の謝礼を受取り解散

仲間

事業活動をともに進めている方たち、協力者、参加者等

「働きたいと思ってるが、なかなかうまくいかないな」と感じている人、
滋賀県地域若者サポートステーション、滋賀県社会福祉協議会

メンバー

生きづらさを抱えた人の働く場づくり小委員会(平成27年度)

- 城 貴志(NPO法人滋賀県社会就労事業振興センター 常務理事兼センター長)
- 眞弓 洋一(社会福祉法人東近江市社会福祉協議会 地域福祉課長)
- 山崎 悦司(社会福祉法人湖北会 湖北地域しょうがい者相談センターほっとステーション センター長)
- 山下 晏叶子(社会福祉法人虹の会 高島市障がい者相談支援センターコンパス センター長)
- 居川 勉(社会福祉法人達真会 特別養護老人ホーム多賀清流の里 特養統括係長)
- 橋本 隆也(滋賀県労働雇用政策課就業支援室 室長補佐)
- 大岡 由起(社会福祉法人大津市社会福祉協議会 地域支援グループリーダー)
- 朽木 弘寿(NPO法人就労ネットワーク滋賀 滋賀県地域若者サポートステーション 総括コーディネーター)

エピソード 活動者の声

(参加者の声)

●大きな声で話すのが苦手なので、それを克服したいと思って参加しました。職員さんや他の参加者の人と話しながらできたので、少しは前にすすめたかなと思います。

●最初はとても緊張しましたが、公的な場所なので、社会の中に参加できると思って申込みしました。社会に慣れる練習ができたと思います。

●作業を他の参加者の方が手伝ってくれました。その時、「ありがとう」とはっきり伝えられなかったで、次からは頑張ってみようと思います。

●効率的な方法を考えることが好きな自分の性格を再確認できて自信になった。

●家から離れた場所だったので、移動がスムーズにできるか、自分の体調が大丈夫か、加減をつかみたくて参加しました。ちゃんと役に立てたかは不安ですけど、自分とし

てはチャレンジができたかなと思います。家の近くでもこのような場があれば参加したいと思いました。

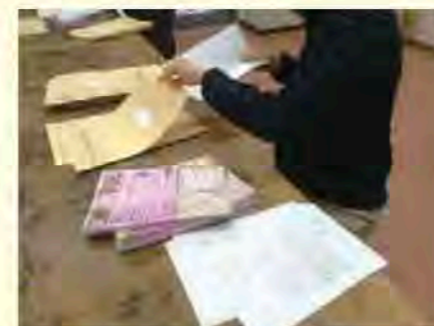
(滋賀県社協職員の声)

●最初はどのように関わればよいか戸惑った。一緒に作業をし、少しずつその人を知っていく中で関わりを考えることが大事と感じた。

●参加者は徐々に積極的になり、語りが増えてきた。回数を重ねること、続けることが大事と感じた。

●いつも少人数で大変だった仕事を一緒にしていただけだったので、とてもありがたかった。

●「普段こんなに良い食事をしていない」「口座をもっていない」等の参加者の言葉が印象的だった。色々な学び、気づきがあった。



住民を支える専門職の思いは制度を超える

医療ケアを必要とする重症障害児者の入浴支援モデル事業

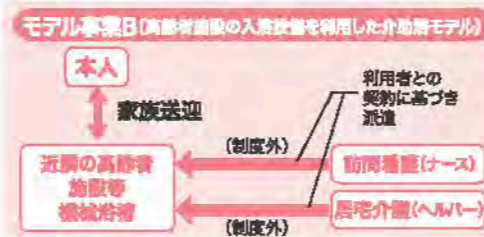
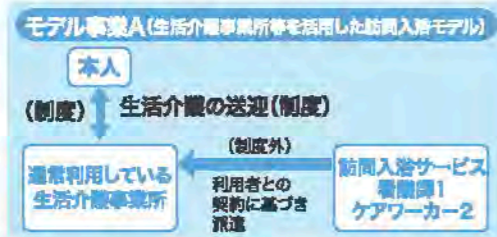
目的

なにを目的にした、どんな事業か(概要)

在宅での入浴が難しくなっている重症心身障害児・者が、地域の福祉施設のお風呂で看護師・ヘルパーの介助で入浴する新たなサービスの創出をめざしたモデル事業です。

現在、入浴設備のない生活介護事業所で訪問入浴により入浴するモデル事業Aと、特別養護老人ホーム等の高齢者介護事業所の機械浴槽を利用

して、訪問看護と居宅介護サービスを組み合わせて入浴するモデル事業Bで有効性を実証しています。高齢者・障害者という制度の枠を超えた支援体制、制度上では居宅外での利用が認められない訪問看護や居宅介護の施設内利用という運用方法等、困っている人を地域の医療福祉関係者が共同で支援するシステムを提案していきたいと考えています。



展開

どんな展開、ひろがりをしてきたか(プロセス)

滋賀県障害者自立支援協議会ではこの数年、重症心身障害児・者の支援課題を重点活動の一つとして取り上げてきました。実態調査をするなかで、多様なニーズの中でも、入浴に関する課題が多いことが明らかになりました。そもそも重症心身障害児・者の人が、在宅で生活する上においては、食事、排泄、入浴、外出等の課題が存在していることは、これまでいわれていましたが、その中でもさらに顕著な課題として入浴課題があります。

入浴については児童期と成人期における体格等、また個々の障害による体型等、医療ケア有無やその内容等、自宅の浴室の環境等々、個々の様々な状況によって課題の大きさが変化しますが、総じて抱きかかえて入浴できる時期を過ぎると、介護面での大

変さが顕在化します。まして医療的ケアが必要な人は、家族総出で介護しなければならない人もおられます。入浴介護の部分に医療、福祉サービス等に委ねる人も増えていますが、まだまだ社会資源が不足していること、医療、福祉支援サービスについても利用回数、頻度に限度があること(たとえば訪問看護の派遣については週三回が限度になっている)等々が入浴支援を確保することのネックになっています。

緑のモデル事業では、この課題に向き合い、重度の人、特に医療的ケアが必要な最も障害の重い人にスポットを当て、そのような状態の人でも地域で安心して、普通に暮らすことが出来るようにと取り組んでいます。



エピソード

このモデル事業の成果

この事業を通じて、いろいろな成果がありました。たとえば、高齢者施設を利用して入浴をされている児童や成人期の人もありますが、これまで障害児・者が高齢者施設を利用する機会はほとんどありませんでした。しかしこのモデル事業で受けとめていただく高齢者施設に、若年の障害児、者が出入りされることが醸し出す、日常とは違うよい空気感があると評価されています。まさ

にこのことは、これからの社会が目指すインクルーシブ社会の具現化の一步であると確信しています。緑の入浴事業の取り組みから、「最も障害の重い人が輝く社会」、糸賀先生の「この子らを世の光に」、「全ての人々が普通に暮らすことのできるインクルーシブ社会」に繋がることを期待しています。(中島秀夫さん、えにし通信Vol.6をもとに再構成)

仲間

制度横だし・運用改善小委員会(平成27年度)

- 中島 秀夫(滋賀県障害者自立支援協議会 事務局長)
- 糸山 めぐみ(訪問看護ステーションオリーブ 所長、医療福祉・在宅看護地域創造会議)
- 中村 恭子(滋賀県医療福祉推進課 副参事)
- 大谷 喜久(甲賀市社会福祉協議会 甲賀地域福祉活動センター長)
- 石澤 英明(彦愛犬地域障害者生活支援センター・ステップアップ21 次長)
- 廣瀬 由希(社会福祉法人青い鳥会・彦根学園 相談支援員)
- 小林 千鶴(社会福祉法人くすのき会・相談支援事業所くすのき 相談支援専門員)
- 増野 隼人(社会福祉法人びわこ学園・重症児者相談支援センターびわりん 相談支援専門員)
- 平井 真紀(社会福祉法人真寿会・特別養護老人ホーム能登川園 施設福祉課長)
- 山口 俊(社会福祉法人びわこ学園・重症心身障害者通園事業所ピアーズ サービス管理責任者)

緑の入浴支援事業をともに進めていただいている方たち

◆モデル事業A/生活介護事業所等を活用した訪問入浴モデル
(草津市) 江坂翔さん、中島瞳さん、アサヒサンクリーン、びわこ学園ピアーズ、びわこ学園医療福祉センター草津

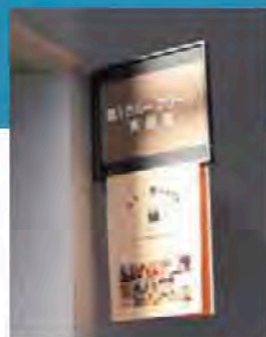
◆モデル事業B/高齢者施設を活用した入浴モデル
(大津市) 土田有希さん、特別養護老人ホームカーサ月の輪、Nアート訪問看護ステーション、スマイルケア
(日野町) 井上綺乃さん、特別養護老人ホーム菅の松、訪問看護ステーションひの、日野町社会福祉協議会ひだまり事業所
(東近江市) 細見和沙さん、滋賀県看護協会在宅ケアセンターみのり

◆県内の協力施設(平成28年3月末現在33施設)

- 大津市/介護老人福祉施設リパプール、特別養護老人ホーム福寿荘、特別養護老人ホームカーサ月の輪、真盛園デイサービスセンター、特別養護老人ホーム真盛園
- 彦根市/特別養護老人ホームさざなみ苑、彦根市社協南デイサービスセンター、彦根市社協北デイサービスセンター
- 長浜市/特別養護老人ホームふくら、伊香の里デイサービスセンター、特別養護老人ホーム伊香の里、グループホームまんでん塩津、特別養護老人ホームまんでん塩津、まごころホームまんでん小谷、特別養護老人ホームけやきの杜、
- 近江八幡市/特別養護老人ホーム水葦の里
- 草津市/特別養護老人ホーム風和里
- 守山市/特別養護老人ホームゆいの里
- 甲賀市/特別養護老人ホーム甲賀荘、せせらぎ苑デイサービスセンター、
- 野洲市/デイセンターさくら
- 湖南市/特別養護老人ホームあぼし
- 高島市/高島市社協さくら新旭、高島市社協さくら今津北
- 東近江市/特別養護老人ホーム沖野原、在宅ケアセンターみのり、特別養護老人ホーム能登川園
- 米原市/デイサービスセンター愛らんど、デイサービスセンターゆめホール、西部デイサービスセンターきらめき
- 日野町/老人ホームさつき荘、特別養護老人ホーム菅の松
- 豊郷町/ステップアップ21



ふく・楽café～縁～ —福祉の仕事と楽しく生きる—



目的

福祉を学んでいる学生と福祉職員の語り場

気にはなっているがなかなか聞く機会がない、福祉の先輩の“本音”の話。この企画は「福祉をもっと開けたものにするために、カッコいい先輩のありのままの姿を知ってもらおう!」と、現在福祉を学んでいる学生が各分野の福祉職員と出会い、ゆるやかな雰囲気の中でその仕事や生き方に触れることで「福祉の仕事と楽しく生きること」を知り、その熱い想いを直に感じてもらいたいという思いから始まりました。

ゲストスピーカーとなる職員は学生と歳の近い若手職員にお声かけし、まるで近所のお兄さん・お姉さんのような近い距離で、福祉との出会いや道を決めたまっかけ、やりがいや葛藤、プライベートな休日の過ごし方等についてざっばらんに語り合います。



展開

どんな展開、ひろがりをしてきたか(プロセス)

- 平成26年12月10日(水)
龍谷大学社会学部臨床福祉学科・地域福祉学科のご協力のもと、龍谷大学内にて開催。15名の学生が参加。
- 平成27年7月18日(土)、彦根勤労福祉会館にて開催。
滋賀文教短期大学、びわこ学院大学、聖泉大学、滋賀大学、滋賀県立大学への参加呼びかけのもと、5名の学生が参加。
- 平成28年1月20日(水)、龍谷大学社会学部臨床福祉学科・地域福祉学科のご協力のもと、龍谷大学内にて開催。26名の学生が参加。



メンバー

縁結び・つながりづくり小委員会(平成27年度)

- 小島 健史(守山市社会福祉協議会 総務課長)
口村 淳(特別養護老人ホーム 淡海荘 係長)
田中 昭彦(市町社協職員連絡協議会 幹事)

仲間

事業活動をともに進めている方たち、協力者、参加者 等

龍谷大学社会学部 臨床福祉学科・地域福祉学科、龍谷大学 ボランティア・NPO活動センター、滋賀文教短期大学、びわこ学院大学、聖泉大学、滋賀大学、滋賀県立大学、福祉を学んでいる、あるいは興味を持っている学生

◀これまでのゲストの所属施設・事業所▶

特別養護老人ホームカーサ月の輪、大津市子ども家庭相談室、びわこ学園、東近江市社会福祉協議会、BRAH=art.、訪問看護ステーションふれんず、ステップアップ21、めぐみ保育園、長浜メディケアセンター、長浜市社会福祉協議会、特別養護老人ホーム淡海荘、豊中市健康福祉事務所、大津市社会福祉協議会



エピソード 活動者の声

(ゲストスピーチ)

- 学生時代、障害児のキャンプに行き、ぎゅっと握られた手の感触。その何かを伝えたい感触を追いかけて、今この仕事をしています。
- 僕は福祉をきちんと学ばないまま今の相談の仕事に就いて、障害のある人の生活を支えるってどういうことなのか全くわからなかった。悩み続けながらここまで10年以上来て、ようやく最近自分の仕事が見えてきました。
- 自分が祖母の看取りで経験した「最期に一緒にいられてよかった」という気持ちを多くの人に味わってもらいたくて、今の訪問看護の仕事に転職しました。

(参加者の声)

- 職員の皆さん一人ひとりの育ってこられた背景や今の仕事に就いた経緯、今の想いをほぼマンツーマンで聞くことができ、すごい楽しかったです。(参加学生)
- 参加されていた大人の方々がとても優しく素敵で、福祉への興味が深まりました。(参加学生)
- 進路について悩んでいるので、ゆっくり考えたらいいよって優しく声をかけてもらって嬉しかったです。視野がひろがりました。(参加学生)
- 他のゲストスピーカーの皆さんのお話がとても勉強になり、またその人間力に圧倒されました(笑)でも、もっと福祉を知りたいと思うようになりました。このような機会を頂けたこと、大変光栄に思います。(ゲストスピーカー)

～“滋賀の縁”があるから出会える人がいる～ 男女の縁結び

福こい♡縁結び

目的

なにを目的にした、どんな事業か(概要)

日々目の前の誰かの笑顔のために心を砕いて向き合っている、福祉職員の皆さん。“滋賀の福祉”は、職員一人ひとりの元気によって支えられています。

このたび“滋賀の縁”というつながりが生まれたことで、これまでは分野や所属が違うためなかなか顔を合わせる機会がなかった職員同士も、出会い、語

り合う機会が増えました。

新たな出会いは、元気の源。この機会を皆さんが公私にわたってさらに充実し、元気になる基盤として活かすべく、縁センター会員団体・法人に勤務する独身男女の出会いの場づくりを通して、職員の幸せづくりから仕事への意欲向上と地域活性化を図ります。

展開

どんな展開、ひろがりをしてきたか(プロセス)

●平成26年7月18日、スタッフ向けセミナー開催。このような企画は経験ゼロのスタッフが多い中、夢ころぼ主宰・松尾やよい先生から縁結び事業のノウハウについて学びました。

●「袖振れ合うも多生の縁♡浴衣で出会い・縁結び」平成26年8月23日(土)、西教寺(大津市坂本)にて、全員おそろいの浴衣を着てちよいぽら・コミュニケーションカアップセミナー等を通して親睦を深めました。男性11名、女性13名から5組のカップルが成立。

●「幸せ結ぶ♡えにし蕎麦」平成27年3月14日(土)、今津総合運動公園(高島市今津)にて、そば打ち体験等で交流。男性12名、女子11名から5組のカップルが成立。

●「心ほかほか♡かまど縁結び」平成27年10月3日(土)10:00～15:00 ソラノネ食堂(高島市田中)にて、かまど体験や芋ほりを通して交流。男性10名、女性7名の参加者から4組のカップルが誕生。

●「春こい♡えにしカレー」平成28年3月12日(土)10:00～15:30 ローザンベリー多和田(米原市多和田)にて、キーマカレーづくり等を通して親睦を深める。男性13名、女性9名の参加者から5組のカップルが成立。



▲皆でワイワイ楽しんで作れて、仲良くなるきっかけになりました!(参加者アンケートより)



▲クラフト紙のチラシが目印★

エピソード 参加者の声

●スタッフの方々、松尾先生の皆様のあたたかい笑顔で最高でした。また参加したいです。(30代男性)

●とても素敵な時間を過ごせました♡料理作りは自然と話せて良いですね (20代女性)

●同じ目的のもとに出会うことに恵まれていなかったときに頂いた機会だったこと、同じ業種・業界にそのような方がたくさんいらっしゃることに勇気づけられました。ほんの少し前を向ける機会になりました。また機会がありましたら参加させていただきたいです(男性)



～松尾やよい先生(夢ころぼ主宰)より～

●笑顔・笑声・笑心が大事!男性も女性も相手の立場に立った振る舞いを心がけて、あたたかい会場に素敵な出会いを引き寄せましょう♪



▲大自然の中、普段できない体験ができた★(参加者アンケートより)



▲これからも、みんなに笑顔になってもらえる企画を目指します!! byスタッフ一同



メンバー

縁結び・つながりづくり小委員会(平成27年度)

小島 健史(守山市社会福祉協議会 総務課長)
口村 淳(特別養護老人ホーム淡海荘 係長)
田中 昭彦(市町村協議員連絡協議会 幹事)

仲間

事業活動とともに進めている方たち、協力者、参加者 等

夢ころぼ、西教寺、今津総合運動公園、ソラノネ紀伊国屋、ローザンベリー多和田



縁センター シンボルマーク ～“えにしちゃん”にこめられた思い～

目的

なにを目的にした、どんな事業か(概要)

“滋賀の縁”シンボルマークは、県民のみなさんの思いのこめられたものにした。その思いから県内の学校や企業の皆さんに応募を呼びかけたところ、1か月弱という短い募集期間に、なんと1,152通もの作品が集まりました。

テーマは、「わたしとあなたのつながりに、ありがとう」。あたたかい思いのこもった力作ぞろいで審査は難航しましたが、3点の優秀賞が決定し、その中でも最優秀賞となった藤居紗来さんの作品が縁セン

ターのシンボルマークに決定しました。以降、ピンバッジや広報物のあちらこちらで、今日もあたたかな“滋賀の縁”を届けてくれています。

特にピンバッジは好評で、応募いただいた皆様に参加賞としてお送りしたほか、会員団体・法人をはじめとする県民の皆様さまにさまざまな場面で親しまれています。“縁づくり”をともにすすめる仲間の印として、今後も大切にに使わせていただきます。

展開

どんな展開、ひろがりをしてきたか(プロセス)

- 平成26年7月、県内の小中学校および関係機関、会員団体・法人に向けて応募はがき付きチラシを配布し、シンボルマークイラスト募集開始。
- 8月、学識者を含む審査員による選考会にて審査。
- 9月1日、縁センター設立総会にて最優秀賞1点、優秀賞2点について表彰。
- 10月 ピンバッジ完成



仲間

事業活動をともに進めている方たち、協力者、参加者等

県内のご応募いただいた皆様、
広報にご協力いただいた皆様、
成安造形大学

ピンバッジの普及推進や
新たに福祉ボランティアをする人1万人等、
“滋賀の縁”がより県民の皆様の中に深く浸透し、
多くの人の心を灯す県民運動となるよう、
広報・啓発を進めます!

エピソード

活動者の声

～最優秀賞～
藤居紗来さん(長浜市・小3)



みんながなかよく助け合えることって、とてもいいなと思ってこの絵を描きました。
選ばれて、とてもうれいす。ありがとうございます。

ひとり親家庭の子育てに関する 実態調査

滋賀の縁創造実践センターでは、「遊べる・学べる淡海子ども食堂」推進事業を核とした「子どもの笑顔を育むコミュニティづくり」を県全体の取組みとして展開しようと動きはじめました。これは地域連帯感の育みをめざした活動です。

そして活動に取り組むなかで、子どもの貧困問題の見えにくさ、孤立や困窮の実態の見えにくさ、困りごとを抱えた世帯へのアプローチへの難しさが課題として出てきました。この課題は、日頃から民生委員児童委員の方たちが感じていたことでもありました。そこで、今回、統計から「子どもの貧困」という状況にある家庭の割合が高いとされる母子世帯を対象に、必要な支援がどのように得られているのか、また、支援につながらない人はどこで困っているのかを明らかにすることにより、支援につなぐに困難な家庭への支援の工夫・強化に生かそうという思いから調査を実施することになりました。

縁センターでは、今後、母子福祉のぞみ会や民生委員児童委員協議会連合会、支援関係機関の方たちと共に、調査結果をもとに支援強化策の提案や支援者の学習会をしようとして予定しています。

調査の概要

1. 調査の名称

「滋賀の子育て家庭調査～助け上手、助けられ上手な地域をめざして」
平成28年4月1日(金)～5月10日(火)実施

2. 調査の実施主体

滋賀の縁創造実践センター・
滋賀県民生委員児童委員協議会連合会
(協力:滋賀県)

3. 調査の対象と方法

①調査対象

20歳未満の子と同居している母子世帯
※県内母子世帯数 13,197世帯(平成26年4月1日現在)

②調査方法

県内の民生委員児童委員(平成27年11月現在3,209名)が、担当地域内の母子世帯のなかから1世帯を目安に調査票を配布し、郵送で回収する。

4. 主な設問項目

- 子育てや家事の状況(日常の子育てや家事の担い手は? あなたの負担感は?)
- 家族や親族、友人、地域との関わり(助けを求められる家族、親族、友人は?)
- 世帯の家計状況(子どもにかかる費用で経済的負担が大きいと感じるものは?)
- 子育てに関する心配や悩みごと(悩みごとのなかみと相談相手、緊急時に頼るとすれば?)
- 子ども食堂についての希望や期待(場所、日時、対象、費用等)

ひとり親家庭の子育て支援に関する調査委員会

- 委員長 山田 容
(龍谷大学社会学部臨床福祉学科 准教授)
- 永田 祐
(同志社大学社会学部社会福祉学科 准教授)
- 山本 朝美
(児童養護施設小鳩の家 施設長)
- 上村 文子
(滋賀県スクールソーシャルワーカー)
- 高森 裕子
(株式会社三菱総合研究所 主任研究員)
- 上野谷加代子
(滋賀の縁創造実践センター副代表理事)
- 谷口 郁美
(滋賀の縁創造実践センター所長)



縁センターと滋賀県との協働

“おめでとうからありがとうまで” 公私協働の福祉しが連携協定

糸賀一雄生誕100年記念を契機として、滋賀の福祉関係者には、あらためて「自覚者が責任者」との思いを共有・共感する機運が高まっている。

近江学園やびわこ学園の創設、大津方式から始まる早期発見・早期療育の取組や、生活ホームや共同(働)作業所の制度化などは、自覚者である“民”の先駆的実践に学び“公(県)”により制度化・普遍化されたもので、まさに「公私協働」により実を結んだものである。

先達により築かれたこの「公私協働の福祉しが」を具体的な実践を通して再構築し、次代につなぐことが滋賀の福祉関係者の使命と自覚し、滋賀県知事と滋賀の縁創造実践センター代表理事は、滋賀の縁創造実践センターがめざすトータルサポートの福祉システム化、制度の充実と制度外サービスへの取組、縁・支えあいの県民運動を公私協働により実現するため協定を締結する。

1 連携して取り組む事項

- ①縁センターが設置する企画会議への関係部局(健康医療福祉部、商工観光労働部、教育委員会事務局等)職員の参画
- ②トータルサポートのためのプラットフォームづくり
- ③様々な生活課題を持つ世帯を包括的、継続的に支援する取組
- ④様々な縁(えにし)を紡ぎなおし、地域で暮らすことを支える仕組みづくり
- ⑤トータルサポートを暮らしの場で実感できる居場所づくりを県民運動としてひろげていくための活動
- ⑥制度の狭間や制度外にあるサービスの制度化・普遍化に向けた協議
- ⑦制度の充実に向けた協議

2 県と縁センターは、現場の実践から明らかになった福祉課題の共有と課題解決に向けての意見交換会を原則として年2回実施する。

3 県は縁センターの円滑な事業実施および運営の基盤づくりに対する全庁横断的支援に努めるものとする。

平成27年5月13日 知事との懇談

縁センター設立からほぼ10か月が経過するなかで、改めて「福祉しが」というブランドのオリジナリティであり原動力としての公私協働の意味と実践を共有すること、そして制度のはざまへの取組みをすすめるなかで「子どもの問題」への問題意識と実践の方向性を共有することをテーマに懇談のテーブルにつきました。



縁センターからの提案

1 県と縁センターによる公私協働の推進

《課題》

- ①協働が、企画員という“点”の関係性にとどまっている。
- ②子どもの貧困への取組、要養護児童の就労体験、ひきこもりの人や働く場につながりにくい人等の「働く場」づくりは、教育委員会や商工観光労働部との協力連携が必要不可欠であるが、教委、商労働部の動きが見えない。

《提案》

- ①健康医療福祉部、教育委員会事務局、商工観光労働部の連絡調整担当の明確化
- ②県と縁センターが実践を共有し、より実質的な協働が推進できる体制の整備

2 制度のはざまへの公私協働の実践の提案

すべての子どもの幸せ・すべての子どもの未来を応援する「遊べる・学べる淡海子ども食堂推進事業」の協働実践を提案。縁センターから県への提案の実現に向けて、「子どもの貧困」の解決は少子化対策・人口減少対策の肝であるとの認識のもと、

1. 平成27年秋頃を目途に策定作業が進められている(仮称)滋賀県人口ビジョン・総合戦略において、子どもの貧困対策にかかる施策をしっかりと位置づけていただきたい。
2. その上で、「遊べる・学べる淡海子ども食堂」推進事業について、政府が平成28年度に創設する地方創生の新型交付金を活用した事業展開が図れるよう検討いただきたい。

以上、2点を要望しました。

平成27年7月17日 知事からの呼びかけにより「人口減少を見据えた豊かな滋賀づくり」に向けての意見交換

平成27年9月8日 知事への政策提案・要望活動

縁センター会員が現場の課題に対して「ないものは創る」という姿勢で取組みを進めたモデル事業の普遍化に向けた政策提案を提出しました。実践者である小委員会リーダーは、困難を抱える人々の願いを伝え、モデル事業による試行をふまえた新たなシステムの提案を行いました。

「おめでとう」から「ありがとう」まで、一人ひとりが大事にされる地域づくり
滋賀の縁創造実践センターからの提案

「子どもの笑顔を育むコミュニティづくり」とおした豊かな滋賀の創造

平成27年(2015年)7月
滋賀の縁創造実践センター

提案1 全員参加型公私協働で進める「遊べる・学べる淡海子ども食堂」推進事業

【提案1-1】
「淡海子ども食堂」の運営を持続可能なものとしていくため、全員参加型公私協働のシステムを構築された。
①「遊べる・学べる淡海子ども食堂」を県下広域に広げるための推進組織として、県民がともに参画する「(仮称)子どもの笑顔を育む縁ネット」(仮称)の設立
②「遊べる・学べる淡海子ども食堂」の運営を推進する
③「遊べる・学べる淡海子ども食堂」の運営を推進する
④「遊べる・学べる淡海子ども食堂」の運営を推進する

提案2 児童養護施設や里親のもとで育つ子ども・若者の社会への架け橋づくり

児童養護施設や里親家庭で育つ子ども・若者が一人ももれなく、自立した一人の大人として生活する力をもつて進路を開き得るよう、地元企業や事業所、地域住民の応援を得て、子ども・若者の自立支援の取り組みを推進する。

自立への土台づくり
自立後の受皿づくり

「子どもの笑顔を育むコミュニティづくり」とおした豊かな滋賀の創造

【案への提案】
ひとり親家庭など大人1人で子どもを養育している家庭が特に経済的に困窮している家庭があることから、ひとり親家庭の自立支援や児童養護施設、子ども救済センターの設置に向けた地域づくりの推進に必要となる施策の検討を促すこととした。

提案1 全員参加型公私協働で進める「遊べる・学べる淡海子ども食堂」推進事業

【提案1-2】
「淡海子ども食堂」の活動に対して、教育と福祉両面から一体的に支援を行う体制の整備にかかわるモデル事業推進協議会設置と教育委員会が主催する事業として創設された。
①スクールソーシャルワーカー(SSW)活用事業の拡充
②児童養護施設や里親家庭で育つ子ども・若者の社会への架け橋づくり

提案3 制度で対応できないひきこもりの人と家族への支援

ひきこもり状態が長期間にわたる人については、本人と家族への支援が十分に届いていない実態がある。ひきこもり状態にある人たちが、共に生き共に支えあふ「共生社会」の一員として社会のなかで役割を持って暮らしていけるよう、働く世代であるひきこもりの人と家族に訪問型で支援を届け、社会とつながり出し出す支援活動を進めたい。

【福祉圏域】
ひきこもりの人と家族支援センターの設置
ひきこもりの人と家族支援センターの設置
ひきこもりの人と家族支援センターの設置

つながりひろがる縁の輪

センターの取り組みは、下記のような広報によって随時進捗状況をお知らせしています。是非手に取ってご覧ください！

★えにし通信年4回発行！

フルカラーの地域づくりマガジン



Vol.1 創刊号！

動き出した滋賀の縁の実践！
各小委員会メンバーの想いを掲載



Vol.2

制度のはざまってどういうこと？
それぞれの現場での気づきインタビュー



Vol.3

いま、「地域に必要なこと」ってなんだろう？
子ども食堂に向けた座談会を開催



Vol.4

ハローわくわく仕事体験事業に参画して
いただいている企業の皆さんが登場★



Vol.5

施設の強みが子どもの居場所に！
フリースペース



Vol.6 最新号！

特集：重度心身障害児者の
入浴支援事業

★ニュースレター

随時発行！最新の情報をお届け



★パンフレット

三つ折りお手軽サイズ！



ホームページ27年夏、
リニューアル！
スマホサイトもあります

<http://www.shiga-enishi.jp/>



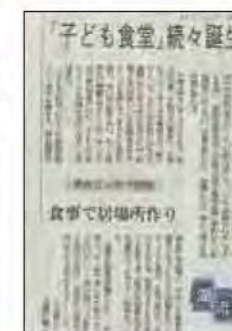
★facebook

皆さんのいいね！お待ちしております
<https://www.facebook.com/shiganoenishi>

★新聞記事★



朝日新聞(2015年2月5日)



京都新聞(2015年10月17日)



京都新聞(2016年3月5日)

★このほか、テレビ等の各メディアでも取り上げられています★

これからも“滋賀の縁”がさらに豊かな県民運動となるように、広報・普及を広げていきます！

滋賀の縁創造実践センター 設立趣意書

設立趣意

今、滋賀の福祉にかかわる私たちには、糸賀一雄らが福祉や社会の未来のためにつないでくれた“バトン”があります。バトンにつめられた思想と実践と希望。私たちは、民間福祉の実践者として、「自覚者が責任者」との思いをあらためて共有・共感しました。

私たちの問題意識は、2025年問題といわれる少子高齢化への不安とともに、重なり合う生活課題を抱えながら支援につながらない人々、制度の狭間にあるため支援が得られない人々等、社会的孤立や生活困窮の問題が広がっていることです。私たちは、この問題を見逃さず、滋賀に暮らす一人ひとり、だれもが、「おめでとう」と誕生を祝福され、「ありがとう」と看取られるまで、ふだんのくらしのしあわせ(ふくし)がもてる社会を創りたいと考えます。

このため、民間福祉関係者が枠を超えてつながり、地域住民とともに社会とつながっていない人々の縁を紡ぎなおし、生き生きと地域のなかで暮らせるよう支援するしくみと実践を県下にくまなくつくっていくための推進母体として、「滋賀の縁創造実践センター」を設立します。

このセンターの取り組みは、いわば福祉の新しい手法へのチャレンジであるとともに、滋賀の新しい福祉文化を創り、発信していくものであります。多くの方々のご賛同、ご参画をお願い申し上げます。

センターがめざすもの

- (1) トータルサポートの福祉システム化
- (2) 制度の充実と制度外サービスへの取り組み
- (3) 縁(えにし)・支えあいの県民運動

活動内容

本センターは、上記の設立趣意を踏まえ、次の活動を行います。

- (1) 制度で対応ができないニーズに対する支援の開発と実践
- (2) 県内各地で相談・生活支援に取り組む支援者の支援
- (3) 県内各地域におけるトータルサポートのための協働のしくみづくり・トータルサポートの好事例の普遍化

① 地域に縁・共生の場をつくる 300か所(概ね小学校区に1つ)

誰もが気兼ねなく寄れる場で、見守りネットワークの拠点として支援者同士がつながれる場、SOSにつながる場を縁・共生の場として、地域のなかにその活動と実践を広げていきます。

◀リーディングプロジェクト▶

- (1) 「遊べる・学べる淡海子ども食堂」 16か所(準備中含む)
- (2) “滋賀の縁”認証事業 縁認証9か所、縁奨励2か所

② 課題解決のためのネットワークづくり 15か所(概ね福祉事業所単位)

1人ひとりを、家族を、制度ごとではなく分野横断でサポートするために支援者がつながり、解決のために動けるネットワークをつくります。

- (1) 滋賀の縁塾の開催 7か所
- (2) 圏域別支援者交流会、勉強会の開催 7か所

③ 制度の対象とならず、支援が届かない課題の解決に取り組む 15のモデル事業

深刻な問題であるのに制度の対象とならず、支援が上手く届かない課題があります。支援者が現場で困難を感じている課題をもとに支援を組み立て、実施し、制度の拡充や施策の創設をめざします。

- (1) フリースペース 6か所実施
- (2) 要養護児童の自立支援 73事業所登録、延べ24人の児童が体験
- (3) ひきこもりの人と家族の支援 甲賀モデル事業、家族・応援者交流事業
- (4) 働きたいを応援! 傍聴体験
- (5) 医療ケアを必要とする重症心身障害児者の入浴支援事業 3地域で実施

④ 国や県、市町への施策提案に取り組む 20の提案

モデル事業や会員の現場での実践に基づいた施策充実への提案に取り組みます。

⑤ 縁・支えあいを県民運動にしていく→新たに福祉ボランティア体験をする人1万人

つながりと助け合いが豊かに育まれる滋賀ならではの県民性。そんな滋賀づくりとして、市町ボランティアセンターと会員施設が協力して福祉ボランティア体験の場をつくります。28年度より、本格実施予定!

事業推進の 基本姿勢

- ① 最先端の“福祉”支援情報と考え方を提示する
- ② 最先端の“福祉”アクション(実践)モデルを提案する
- ③ 生活者目線で暮らしの課題をウオッチングし続ける
- ④ 最先端のアクション(実践)モデルと草の根のアクション(実践)モデルを融合させる
- ⑤ “おめでとう”から“ありがとう”まで、生活を支える多職種連携、顔の見える関係、対話を大切にする

滋賀の緑創造実践センター名簿 (平成27年度)

滋賀の緑創造実践センター 役員体制

	氏名	所属
代表理事	前阪 良憲	滋賀県老人福祉施設協議会 会長
	渡邊 光春	社会福祉法人滋賀県社会福祉協議会 会長
副代表理事	桐畑 弘嗣	滋賀県市町社会福祉協議会会長会 会長
	中西 健	一般社団法人滋賀県保育協議会 会長
	上野谷加代子	同志社大学大学院 教授
理事	堤 洋三	滋賀県老人福祉施設協議会 副会長
	山本 朝美	滋賀県児童福祉入所施設協議会 理事
	呉屋 之保	滋賀県民生委員児童委員協議会連合会 会長
	澤 和清	公益社団法人滋賀県社会福祉士会 会長
	崎山美智子	公益社団法人滋賀県手をつなぐ育成会 理事長
	畑下 嘉之	社会福祉法人青祥会 理事長
	黒田 隆	一般財団法人滋賀県民間社会福祉事業職員共済会 理事長
	杉橋 研一	滋賀県社会福祉法人経営者協議会 会長
	山辺 朋子	龍谷大学教授 ※平成27年11月ご逝去されました
監事	園城 治男	滋賀県市町社会福祉協議会会長会 副会長
	藤原 貞	滋賀県老人福祉施設協議会 副会長

滋賀の緑創造実践センター企画員名簿

圏域	分野等の区分	氏名	所属
東近江	地域福祉	中村 静代	社会福祉法人米原市社会福祉協議会 事務局長
	医療福祉	糸山 めぐみ	医療福祉・在宅看取り地域創造会議
	障害者福祉	中島 秀夫	滋賀県障害者自立支援協議会 事務局長
	障害者福祉	金子 秀明	社会福祉法人さわらび福祉会 常務理事
	障害者福祉	城 貴志	NPO法人滋賀県社会就労事業振興センター 常務理事
	高齢者福祉	安武 邦治	社会福祉法人グロー 企画推進課長
	子ども・青少年	山本 朝美	滋賀県児童福祉入所施設協議会理事(小鳩の家・小鳩乳児院施設長)
	子ども・青少年	元藤 大士	滋賀県里親連合会 会長代行
	子ども・青少年	杉山 真智子	NPO法人四つ葉のクローバー理事長
	子ども・青少年	破瀬 勝	社会福祉法人さざなみ学園 次長
	地域福祉	田中 昭彦	滋賀県市町社協職員連絡協議会 幹事(甲賀市社協)
	地域福祉	土淵 孝	滋賀県健康福祉政策課 課長補佐
	医療福祉	中村 恭子	滋賀県医療福祉推進課 副参事
	障害者福祉	丸山 英明	滋賀県障害福祉課 参事
	子ども・青少年	大久保 法彦	滋賀県子ども・青少年局 副参事
	子ども・青少年	梅川 香奈子	滋賀県子ども・青少年局 主事
	教育	梅本 剛雄	滋賀県教育委員会事務局学校教育課生徒指導・いじめ対策支援室 室長
	労働雇用	橋本 隆也	滋賀県労働雇用政策課就業支援室 室長補佐
	若者	朽木 弘寿	滋賀県地域若者サポートステーション 総括コーディネーター
	大津	障害者福祉	山口 俊
地域福祉		佐藤 章	大津市社会福祉協議会 次長
地域福祉		大岡 由起	大津市社会福祉協議会 地域支援グループリーダー
地域福祉		井上 由美	大津市社会福祉協議会 地域支援グループ主事
地域福祉		内田 大	大津市社会福祉協議会 地域支援グループ主事
高齢者福祉		日比 晴久	特別養護老人ホームカーサ月の輪 施設長
子ども・青少年		青山 和美	大津市立所保育園 園長
湖南	地域福祉	小島 健史	守山市社会福祉協議会 総務課長
	地域福祉	本間 由樹	栗東市社会福祉協議会 地域福祉課 業務主任
	高齢者福祉	口村 淳	特別養護老人ホーム淡海荘 係長
	障害者福祉	太田 珠美	湖南地域障害者生活支援センター相談課長
	障害者福祉	増野 隼人	びわこ学園重症心身障害者相談支援センターびわりん相談支援専門員
子ども・青少年	遠藤 貴美代	草津市立第五保育所 園長	
甲賀	地域福祉	湯次 耕大	甲賀市社会福祉協議会 相談支援課課長
	地域福祉	大谷 喜久	甲賀市社会福祉協議会 甲賀地域福祉活動センター長
	高齢者福祉	中沼 孝博	特別養護老人ホームあぼし 施設長
	障害者福祉	豊島 左智男	一般社団法人水口病院 地域連携室長補佐
	子ども・青少年	中野 照子	甲賀市立伴谷保育園 園長
東近江	地域福祉	眞弓 洋一	東近江市社会福祉協議会 地域福祉課長

圏域	分野等の区分	氏名	所属
東近江	高齢者福祉	平井 真紀	特別養護老人ホーム能登川園 施設福祉課長
	障害者福祉	野々村 光子	東近江圏域 働き・暮らし応援センター"Tekito-"センター長
	障害者福祉	小林 千鶴	相談支援事業所 くすのき 相談支援専門員
	子ども・青少年	中郷 廣賢	北里保育園 園長
湖東	地域福祉	藤原 明彦	彦根市社会福祉協議会 地域福祉課長
	高齢者福祉	居川 勉	特別養護老人ホーム多賀清流の里 特養統括
	高齢者福祉	井狩 秀章	犬上ハートフルセンター 介護支援専門員
	障害者福祉	石澤 英明	彦根市地域障害者生活支援センターステップアップ21 次長
	障害者福祉	廣瀬 由希	彦根学園 相談支援員
子ども・青少年	児玉 恵子	めぐみ保育園 園長	
湖北	地域福祉	山岡 伸次	長浜市社会福祉協議会 地域福祉課地域福祉コーディネーター
	地域福祉	田中 雄一	米原市社会福祉協議会 相談支援課長
	高齢者福祉	吉田 京子	特別養護老人ホームけやきの杜 介護支援専門員
	障害者福祉	山崎 悦司	湖北地域しょうがいの相談センターほっとステーションセンター長
子ども・青少年	松井 智津子	長浜市立一麦保育園 園長	
高島	地域福祉	河野 みゆき	高島市社会福祉協議会 地域福祉課 課長
	地域福祉	西野 一暁	高島市社会福祉協議会 地域福祉課 つなかり応援センター「よろず」 就労支援員
	高齢者福祉	澤 和記	特別養護老人ホーム ふじの里 主任介護支援専門員
	障害者福祉	山下 晏叶子	高島市障がい者相談支援センターコンパスセンター長
	子ども・青少年	白井 美恵子	愛隣保育園 園長

滋賀の緑創造実践センター推進員名簿

圏域	社協名	推進員名	所属・職名等
大津	大津市社協	佐藤 章	次長
	大津市社協	大岡 由起	地域支援グループリーダー
	大津市社協	井上 由美	地域支援グループ主事
湖南	守山市社協	小島 健史	総務課長
	栗東市社協	山中 忍恵	地域福祉課長
甲賀	野洲市社協	木村 恵理	福祉企画課 主査
	甲賀市社協	湯次 耕大	相談支援課 課長
東近江	湖南市社協	奥野 修司	生活福祉課 課長
	近江八幡市社協	真鍋 崇	地域福祉課長
	東近江市社協	眞弓 洋一	地域福祉課長
	日野町社協	武重 英樹	地域福祉課 主査
	竜王町社協	杉本 重剛	地域福祉推進部門係長
湖東	彦根市社協	藤原 明彦	地域福祉課 課長
	愛荘町社協	岡村 敦史	地域福祉係長
	豊郷町社協	清水 一平	係長
	甲良町社協	西村 一真	主任主事
	多賀町社協	安藤 典子	事務局次長
	多賀町社協	小林 楓	地域福祉推進員
湖北	米原市社協	村山 善信	地域福祉課 課長補佐 ボランティアセンター長
	長浜市社協	杉山 好和	地域福祉課 課長補佐
高島	高島市社協	杉島 隆	地域福祉課 相談支援係長

「遊べる・学べる淡海子ども食堂」プロジェクトチーム

氏名	所属・職名等
中村 静代	米原市社会福祉協議会 事務局長
西岡 優	社会福祉法人グロー 法人本部 主事
安武 邦治	社会福祉法人グロー 法人本部 企画推進課長
飯沼 昭男	滋賀県民生委員児童委員協議会連合会 理事
小倉 稀唯子	社会福祉法人真盛園 地域交流センター若いも若きも コーディネーター
吉原 信道	高島市社会福祉協議会 相談支援員
本間 由樹	栗東市社会福祉協議会 業務主任
井上 千紗登	湖南市社会福祉協議会 事務員
井上 由美	大津市社会福祉協議会 主事
幸重 忠孝	幸重社会福祉士事務所 代表
福島 功	滋賀県子ども・青少年局 副主幹

■参加団体会員名簿

一般財団法人 滋賀県民間社会福祉事業職員共済会・一般財団法人 滋賀県老人クラブ連合会・一般社団法人 滋賀県介護福祉士会
 一般社団法人 滋賀県保育協議会・公益財団法人 滋賀県身体障害者福祉協会・公益社団法人 滋賀県社会福祉士会
 公益社団法人 滋賀県手をつなぐ育成会・滋賀県介護サービス事業者協議会連合会・滋賀県介護支援専門員連絡協議会
 滋賀県里親連合会・滋賀県児童福祉入所施設協議会・滋賀県社会福祉法人経営者協議会・滋賀県障害者自立支援協議会
 滋賀県民生委員児童委員協議会連合会・滋賀県老人福祉施設協議会・滋賀県市町社会福祉協議会会長会
 社会福祉法人 滋賀県視覚障害者福祉協会・社会福祉法人 滋賀県母子福祉のぞみ会・医療福祉 在宅看取りの地域創造会議

■参加法人会員名簿 ※本名簿は、法人事務所の所在地で掲載しています。

- <大 津> (福)青桐会、(福)穴太福祉会、(福)近江会、(福)近江笑生会、(福)近江神宮仁愛会、(福)大石福祉会、(福)大津市社会福祉協議会、
 (福)大津市社会福祉事業団、(福)大津ひかり福祉会、(福)おおみ福祉会、(福)恩徳寺会、(福)華頂会、(福)唐崎福祉会、
 (福)唐崎福祉会、(福)共生シンフォニー、(福)桐生会、(福)幸寿会、(福)湖青福祉会、(福)小鳩会、(福)滋賀同仁会、
 (福)志賀福祉会、(福)春風会、(福)真盛園、(福)石光山会、(福)禅心福祉会、(福)せんだん二葉会、(福)つばさ会、
 (福)琵琶湖愛輪会、(福)美輪湖の家大津、(福)まほろば、(福)東樹
- <湖 南> NPO法人ものわすれカフェの仲間たち、(福)永山会、(福)鳳凰財団済生会、(福)湖南会、(福)彩陽会、(福)しあわせ会、(福)慈恵会、
 (福)志津保育園、(福)すずのこ保育園、(福)聖優会、(福)パレット・ミル、(福)ひかり会、(福)びわこ学園、(福)みのり、
 (福)守山市社会福祉協議会、(福)モンチ愛愛会、(福)野洲慈恵会、(福)野洲市社会福祉協議会、(福)よつば会、
 (福)栗東市社会福祉協議会、(福)良友会
- <甲 賀> (福)愛心会、(福)あいの土山福祉会、(福)近江ちいろば会、(福)近江和順会、(福)大木会、(福)おさなご会、(福)甲賀会、
 (福)甲賀学園、(福)甲賀市社会福祉協議会、(福)甲南会、(福)湖南市社会福祉協議会、(福)さわらび福祉会、(福)しがらき会、
 (福)信楽福祉会、(福)天地会、(福)八起会、(福)ひまわり会、特定非営利活動法人NPOワイワイあぼしクラブ
- <東近江> (学)滋賀学園、(福)阿育会、(福)育新会、(福)一善会、(福)近江兄弟社地壇会、(福)近江八幡市社会福祉協議会、(福)グロー、
 (福)京泉会、(福)湖東会、(福)サルビア会、(福)慈照会、(福)至徳会、(福)真寿会、(福)布引会、(福)八幸会、(福)万松会、
 (福)東近江市社会福祉協議会、(福)日野町社会福祉協議会、(福)日野友愛会、(福)ほのぼの会、(福)めぐみ会、(福)曾野会、
 (福)竜王町社会福祉協議会、(福)六心会
- <湖 東> (福)慶荘町社会福祉協議会、(福)あすなろ福祉会、(福)近江ふるさと会、(福)甲良町社会福祉協議会、(福)ことぶき会、
 (福)さざなみ会、(福)さざなみ学園、(福)権の実会、(福)慈水会、(福)白雲会、(福)大樹会、(福)多賀町社会福祉協議会、
 (福)相朋会、(福)豊郷町社会福祉協議会、(福)彦根市社会福祉協議会、(福)みづほ会、(福)三つ和会、(福)若葉会
- <湖 北> (福)慶悠もの会、(福)柏葉会、(福)カトリック京都司教区 カリタス会、(福)公悠会、(福)湖北真幸会、(福)湖北報恩会、
 (福)青祥会、(福)尊徳会、(福)達真会、(福)長浜市社会福祉協議会、(福)米原市社会福祉協議会、(福)まんてん
- <高 島> (福)近江愛隣会、(福)光養会、(福)新旭みのり会、(福)たかしま会、(福)高島市社会福祉協議会、(福)虹の会、(福)ゆたか会
- <県 域> (福)滋賀県社会福祉協議会

【個人会員】 上野谷 加代子、山田 朗子、上西 祥之、廣田 敬史、大谷 雅代、宮本 育子、前阪 良恵、疋田 由香里、松田 弘、
 牛丸 昇子、上村 文子、尾畑 聡英、西野 浩美、北居 理恵、松本 敦三、森本 美絵、奥田 与嗣男

【賛助会員】 元三フード株式会社、総本山 西教寺、株式会社なんてん共働サービス、大津市仏教会、滋賀県仏教会、
 一般社団法人きれいや総研滋賀中央センター

- 平成25年
 - 10月 委員会から県知事・県議会に「誕生前(おめでとう)から看取り(ありがとう)まで、地域で暮らすことを支えるしくみづくりと実践」の提案書を提出
 - 2月 3日 委員会において設立に向けた取り組みを協議、12団体が発起人となる
 - 2月13日 設立趣意書による会員への参画呼びかけ開始
 - 3月10日 設立発起人会
 - 4月 9日 設立準備会 総会(54名参加)
 - 4月16日 県と準備会が公私協働の連携協定締結
 - 6月10日 企画員による企画会議 開始
 - 7月 1日 シンボルマーク募集開始
 - 7月15日 滋賀の縁ニュースレター第1号 発行
 - 8月23日 男女の縁結び「袖振れ合うも多生の縁♡浴衣で出会い・縁結び」開催
 - 9月 1日 滋賀の縁創造実践センター 正式発足
 - 9月 8日 知事との懇談会
 - 9月 9日 滋賀の縁 開催
 - 11月10日 県との公私協働の連携協定締結
 - 12月 1日 えにし通信 創刊
 - 12月10日 「ふく・楽café〜縁〜」龍谷大学にて開催
 - 12月15日 滋賀の縁 開催
- 平成26年
 - 1月 7日 企画会議全体会 開催
 - 2月24日 「社会的養護のもとで暮らす子どもたちの自立支援を考える研修会」開催
 - 3月31日 「フリースペースカーサ」スタート
 - 3月14日 男女の縁結び「幸せ結ぶ♡えにし通信」開催
 - 4月28日 平成27年度 総会 開催
 - 5月26日 “滋賀の縁”認証事業 第1回認証式にて3件8団体が認証
 - 7月 3日 キャリアアップセミナー(職員向け)開催
 - 7月 9日 滋賀の縁(湖東会場)開催
 - 7月10日 滋賀の縁(湖北会場)開催
 - 7月11日 キャリアアップセミナー(中高生向け)開催
 「働くってどんなこと?自分の“好き”を見つけてめざす姿を考えよう〜」
 - 7月17日 知事との懇談「人口減少を見据えた豊かな滋賀づくり」に向けての意見交換
 - 7月18日 「ふく・楽café〜縁〜」湖北版 開催
 - 7月27日 「ハローわくわく仕事体験(夏休み)スタート
 - 7月31日 「フリースペースかなで」スタート
 - 8月 5日 滋賀の縁 マネジメント研修 開催
 - 8月19日 滋賀の縁(高島会場)開催
 - 9月 8日 知事との意見交換会
 - 9月15日 滋賀の縁(甲賀会場)
 - 9月29日 「フリースペースせせらぎ」スタート
 - 10月 3日 龍谷大学 福祉フォーラム 第13回 共生塾
 「子ども食堂やってみよう〜地域でつくる子どもの居場所〜」 共催
 男女の縁結び「心ほかほか♡かまど縁結び」開催
 - 10月 9日 正副代表理事会にて、「遊べる・学べる淡海子ども食堂」モデル事業に6団体が採択
 - 10月10日 甲賀モデル事業 スポットライフくればす 開所式
 - 10月27日 滋賀県社会福祉大会にて“滋賀の縁”認証事業 認証・奨励プレートを贈呈
 - 11月 9日 滋賀県社協で傍(はた)楽(らく)体験1スタート
 - 11月28日 中高生向けキャリアアップセミナー第2弾 開催
 - 12月 2日 正副代表理事会にて、「遊べる・学べる淡海子ども食堂」モデル事業に5団体が採択
 - 12月10日 滋賀の縁(甲賀会場)開催
 - 12月11日 滋賀の縁(大津会場)開催
 - 12月12日 企業による中高生向けプロフェッショナルセミナー 開催
 - 12月15日 “滋賀の縁”認証事業 第2回認証式にて1団体が認証、2団体が奨励
 - 12月28日 「ハローわくわく仕事体験(冬休み)スタート
- 平成27年
 - 1月20日 「ふく・楽café〜縁〜」龍谷大学にて開催
 - 2月 3日 正副代表理事会にて、「遊べる・学べる淡海子ども食堂」モデル事業に6団体が採択
 - 2月18日 「フリースペースアイリス」スタート
 - 3月 1日 「遊べる・学べる淡海子ども食堂」 交流会 開催
 - 3月 4日 甲賀モデル事業 実践報告会 開催
 - 3月 7日 滋賀の縁(東近江会場)
 - 3月12日 男女の縁結び「春こい♡えにしカレー」開催
 - 4月 6日 「フリースペース ふじの里 なごみの家」スタート
 - 4月28日 平成28年度 総会 開催(予定)
- 平成28年
 - 1月20日 「ふく・楽café〜縁〜」龍谷大学にて開催
 - 2月 3日 正副代表理事会にて、「遊べる・学べる淡海子ども食堂」モデル事業に6団体が採択
 - 2月18日 「フリースペースアイリス」スタート
 - 3月 1日 「遊べる・学べる淡海子ども食堂」 交流会 開催
 - 3月 4日 甲賀モデル事業 実践報告会 開催
 - 3月 7日 滋賀の縁(東近江会場)
 - 3月12日 男女の縁結び「春こい♡えにしカレー」開催
 - 4月 6日 「フリースペース ふじの里 なごみの家」スタート
 - 4月28日 平成28年度 総会 開催(予定)

